

特定非営利活動法人 **RDA Japan**
2005年度の事業報告・2006年度の事業計画

【 総会資料 】

総会日時：**2005年4月23日（日）**
総会会場：**東京大学農学部7号館 106教室**
（東京都文京区弥生1-1-1）

RDA Japan 事務局所在地
東京都文京区大塚3-5-2-301
電話&Fax ・ 03-3946-4204
Eメール ・ rdaj@thanks.biglobe.ne.jp

【 謝 意 】

2005年度も、多くのご支援をいただき、RDA活動（障害者乗馬の活動）普及のためのさまざまな事業を実施することができました。
まことに、ありがとうございました。

(順不同・敬称略をお許してください)

<ご寄附・助成金>

株式会社クリニコ ジェーシーアール株式会社 大日本製薬株式会社
乗馬ライフ（オーシャンライフ株式会社） 不動産投資研究所
バキュームモールド工業株式会社 株式会社エヌケイケイ 北澤商事有限会社
日本ホリスティック乗馬協会

財団法人笹川スポーツ財団 財団法人日本国際博覧会協会 日本郵政公社

西川清	井上喜久子	時田茂光	長嶋由枝	倉持利三
山元牧子	岡本麻紀	森山奈々子	小笹是子	工藤至康
北澤隆	木村恵一	江面俊夫	長谷洋子	榎本初美
三浦真理子	佐伯隆文	太田恵美子	菊地恵子	長谷川修
本好茂一	吉永みち子			

<賛助会員>

大日本製薬株式会社	社会福祉法人恵光園
永田廣 井上秀	石川梓 矢島恵美

【目次】

■ 次 第		1
■ 2005 年度の役員名簿		2
■ 2005 年度 事業報告に関する件		
年度総括		3
総会、理事会の開催状況		4
2004 年度事業報告一覧		6
■ 2005 年度 会計および監査報告に関する件		
2004 年度 収支決算書		3 3
事業収支明細書 (その 1)	3 6	
)		
事業収支明細書 (その 35)	5 4	
2005 年度 財産目録		5 5
監査報告書		5 6
■ 定款変更 (役員定数の部分) に関する件		
)	5 7	
)	5 8	
■ 役員の承認に関する件		
2006 年度の役員 (案)		5 7
委員会について		5 8
■ 2006 年度 事業計画に関する件		
今年度の基本方針 (案)		5 9
2006 年度事業 (案)		6 0
■ 2006 年度 予算計画に関する件		
2006 年度 収支予算書 (案)		6 7
事業収支予算書 (案) (その 1)	6 9	
)		
事業収支予算書 (案) (その 18)	8 0	

■ 次 第

1. 開会
2. 総会成立要件の確認
3. 理事長挨拶
4. 議長、書記および議事録署名人の選出
5. 議題審議
 - (1) 第1号議案 2005年度 事業報告に関する件
 - (2) 第2号議案 2005年度 会計および監査報告に関する件
 - (3) 第3号議案 定款変更（役員定数の部分）に関する件
 - (4) 第4号議案 役員承認に関する件
 - (5) 第5号議案 2006年度 事業計画に関する件
 - (6) 第6号議案 2006年度 予算計画に関する件
6. 閉会挨拶
7. 閉会

■ 2005年度の役員名簿

理事長	本好 茂一
副理事長	吉永 みち子 (広報担当兼務)
専務理事	太田 恵美子 (企画担当兼務)
事務局 長	長谷川 修 (地方統括担当 兼務)
海外セクレター-担当理事	奥村 まち子
同	金子 美保
財務 担当理事	菊地 恵子
会計 担当理事	田中 美穂
人材育成担当理事	池辺 有紀
同	小池 友子
医事 担当理事	十川 康弘
馬事 担当理事	徳力 幹彦
普及 担当理事	中田 正子
理事	黒田 朋子
同	近藤 誠司
監事	草薨 長栄
同	谷知 庸一

(理事15名 監事2名)

（第1号議案）**■ 2005年度 事業報告に関する件****【年度総括】**

今年も、各方面からたくさんのご支援とご協力をいただき、実りあるたくさんの方の事業を実施することができました。主な事業は、次のとおりです。

<国際シンポジウムおよび関連事業>

- 国際シンポジウム「人と馬との優しい関係」
- 「愛・地球博」 損保ジャパン 企業ブースにおける活動パネル展示
- 名古屋けいば冠レース
- パンパシフィック・パラエクエストリアン・ビデオ競技会

<人材育成（講習会）>

- スペシャルオリンピックス 乗馬コーチ養成のための講習会
- 活動に参加されるボランティアヘルパーを対象にした講習会 → 5回（通算で31回）
開催地と実施時期については、次のとおりです。
 - ・ 帯広畜産大学（北海道帯広市） 5月7日～8日
 - ・ 富山乗馬倶楽部（富山県大沢野町） 5月28日～29日
 - ・ 山形県立総合コロニー希望が丘（山形県川西町） 6月25日～26日
 - ・ 佐々木牧場（岩手県花泉町） 10月15日～16日
 - ・ どさんこファーム（北海道函館市） 11月12日～13日

<啓発・普及（出版）>

- ガイドブックの作成と頒布
- RDAの馬 取扱いガイドラインの配布

<交流事業>

- RDA交流会
- 日韓・フレンドシップ乗馬交流
- モンゴル乗馬ツアー
- RDAサマーキャンプ
- RDA Japan 写真コンテスト

<主な協力事業>

- 帝京科学大学の障害者乗馬に関するカリキュラムへの協力
- 障害者乗馬インストラクターと理学療法士のための講習会
- 各地の活動グループへ海外講師の派遣

このように、2005年度においては大きな事業を多数実施いたしました。

これは、1997年に任意団体としてRDA Japanを設立し、2000年にNPO、2004年に認定NPOと、着実に歩んできた成果であると同時に、これまでの皆さまからのご支援・ご協力、そして、全国各地で障害者乗馬の活動を続けておられるグループの皆さまの日々の積み重ねの結実であります。

2005年度は「活動の成果を結実することができた年度」と総括し、2006年度以降は新たな出発点として、発展と成長に結びつけてまいります。

【総会、理事会の開催状況】

◆ 総会

日時：2005年4月24日（日） 午後3時

場所：東京大学農学部7号館106教室（東京都文京区弥生1-1-1）

出席数：157名（内、委任状提出者135名／議決権を有する会員数229名）オブザーバー：3名

議長：本好茂一 書記：中田正子 議事録署名人：金子美保 野口陽（五十音順・敬称略）

審議事項：

1. 2004年度 事業報告に関する件
2. 2004年度 会計および監査報告に関する件
3. 役員承認に関する件
4. 2005年度 事業計画に関する件
5. 2005年度 予算計画に関する件

審議結果：全会一致で決議されました。

◆ 理事会

※すべての理事会は、理事出席数及び委任状から議事成立の条件を満たし開催しています。

2005年度 第1回理事会

日時：2005年4月24日（日） 午後1時

場所：東京大学農学部7号館106教室（東京都文京区弥生1-1-1）

議長：本好茂一 書記：中田正子 議事録署名人：金森美穂 中田正子

審議事項：1. 総会資料に向けて

2. 愛知博覧会準備について

3. ロゴマーク作成について

4. その他

(1) 日韓フレンドシップ乗馬交流の内容について

(2) 「年会費の納入をお願いする手紙」の文章を検討

2005年度 第2回理事会

日時：2005年8月2日（火） 午後7時

場所：かながわ県民活動サポートセンター（神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2）

議長：本好茂一 書記：長谷川修 議事録署名人：菊地恵子 金子美保

審議事項：1. 「人と馬との優しい関係」準備状況報告

2. 「ガイドブック作成」準備状況報告

3. ロゴマーク作成について

4. 下半期の事業の確認

2005年度 第3回理事会

日時：2006年1月16日（月） 午後5時30分

場所：RDA Japan 事務局（東京都文京区大塚3-5-2-301）

議長：本好茂一 書記： 議事録署名人：

審議事項：1. 2005年度事業の進捗状況報告

2. 2006年度事業計画の骨子作成

3. 2006年度（来期）の執行部役員について

2005年度 第4回理事会

日時：2006年2月27日（月） 午後5時30分

場所：RDA Japan 事務局（東京都文京区大塚3-5-2-301）

議長：本好茂一 書記：長谷川修 議事録署名人：徳力幹彦 中田正子

- 審議事項：1. 総会について
2. 2006年度事業計画の骨子作成
3. 2006年度（来期）の執行部役員について
4. 会計中間報告

◆ メーリングリスト

理事会を補足するために、全ての役員（理事15名、監事2名）のメールアドレスを登録した「理事のメーリングリスト」を設置し、合計700通以上もの活発な意見や情報の交換をしました。

このメーリングリストによって、全ての役員がそれぞれの意見やさまざまな情報を瞬時に共有することで、内外の情勢に即応することができました。

また、住居が遠方であったり、都合によったりと、なかなか理事会に出席できない役員にとっても状況を把握することが可能となり、それぞれから役員から適切な意見提出にもつながりました。

1. 啓発・普及および人材育成事業

(1) 普及・啓発事業

① 事業名：会報「RDA Japan News」の発行

内 容：RDA Japan の活動を広く周知と理解を求めること、そして各地域組織の情報交換を目的に、会報を隔月 1 日付で発行しました。毎号 1,200 部印刷。

活動予定や報告以外にも、会員の近況を知らせる手紙などを掲載しました。

なお、「事業収支明細書（その 1）」における各号の発送数は、RDA Japan 会員および医療、福祉、教育、馬事などの関係者に送付した数で、それ以外に、22 ページにおけるユニット支援として情報提供の一環で 30 部ずつ配布し、講習会やイベントなどで不特定者に配布しました。

実施日：2005 年 5 月 1 日、2005 年 7 月 1 日、2005 年 9 月 1 日、2005 年 11 月 1 日、
2006 年 1 月 1 日、2006 年 3 月 1 日 計 6 回

場 所：編集および発送は、RDA Japan 事務局（東京都文京区大塚）
印刷は、豊島ボランティアセンター（東京都豊島区東池袋）

従事者の人数：5 名

受益対象者の範囲：RDA Japan 会員および RDA Japan の活動に関係する団体や個人

受益対象者の人数：1,200 名（印刷部数に同じ）

支出額：369,735 円（「事業収支明細書（その 1）」を参照）

② 事業名：RDA の馬 取扱いガイドラインの配布

内 容：2004 年度に『RDA の馬ガイドライン作成委員会』を設置し、RDA 活動の柱である「馬（ポニー）」が、使役馬として人間社会と共存し、幸福に仕事を行なうために、次の取扱いにおいて「RDA 活動における馬の取扱いガイドライン」を作成し、配布しました。

- ・ 馴致（トレーニング）における取扱い
- ・ RDA 活動中における取扱い
- ・ 管理（飼育）における取扱い

なお、委員会のメンバーは、次のとおりです。（敬称略、乞許）

委員長	徳力幹彦（日本大学教授、RDA Japan 理事）
委員	青木玲（馬の保護管理研究会代表）
委員	太田恵美子（RDA Japan 専務理事）
事務局	長谷川修（RDA Japan 事務局長）

実施日：通年

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区大塚）

従事者の人数：4 名

受益対象者の範囲：RDA Japan および地方活動組織、その他活動に関心がある人

受益対象者の人数：多数

支出額：15,504 円（「事業収支明細書（その 2）」を参照）

③ 事業名：「RDA活動のためのガイドブック」の頒布

内 容：2000年度にリーバイ・ストラウスジャパンのご支援をいただいて制作した「RDA活動のためのガイドブック」を頒布する事業を継続実施しました。

実施日：通年

場 所：在庫管理および発送は、RDA Japan 事務局（東京都文京区）

従事者の人数：1名

受益対象者の範囲：不特定

受益対象者の人数：多数

支出額：1,180円（「事業収支明細書（その3）」を参照）

④ 事業名：ガイドブックの作成と頒布

内 容：既刊の「RDA活動のためのガイドブック2000年版」を見直し、新たなガイドブックを発刊しました。

「RDA活動のためのガイドブック2000年版」の発行から時間も経過し、日本国内でも国際的にも障害者乗馬の見方や取り組み方が進み変化しています。

今回のガイドブックは前回と同じく「活動の基本」を重点にしながら、実践的な内容や事例を中心にわかりやすい解説を多く盛り込みました。

なお、今回のガイドブックの作成は、日本郵政公社様の「寄附金付の年賀葉書および年賀切手に付加された寄附金」の分配金を受けて作成いたしました。

第一章 障害者乗馬とは

RDA Japanの歩み／障害者乗馬の沿革／障害者乗馬に関する形態の違い
障害者乗馬の効用／RDAとは／RDA Japanとは／RDA Japanの目的
RDA Japanの活動

第二章 活動の要件

馬の確保／障害者用乗馬の選び方／馬場の確保／馬具と馬装／障害者乗馬のチーム
編成／突然の事故の応急処置

第三章 活動の実際

それぞれの役割と仕事内容／騎乗者の姿勢／基本的な技術を学ぶために必要なこと
具体的な練習について／馬の動きに影響を与える騎乗者の反応／馬のコントロール
／軽乗

第四章 チームへのヒント

リーダーとサイドウォーカーの心得／ゲームとアクティビティ
効果的なコミュニケーション／重度な知的障害者のための指示例／ケーススタディ

第五章 障害について

障害の状態について／乗馬（馬車）～その特徴と利点～／騎乗者を指導するときの注意
点／指導の原則／英国RDAにおける乗馬に不適切な障害／具体的な症例

第六章 RDA活動における馬の取扱いガイドライン

はじめに／日本国内の「馬」を取り巻く環境／RDA活動における馬の取扱いガイド
ライン馬のボディコンディションスコア／体重制限表ガイドライン

付録

乗馬療法の各分野のまとめ／療育における馬というパートナー／レッスンのチェック
リスト／乗馬記録について／RDA横浜 騎乗者の記録表

価格：2,000円（税込／送料別） 版型：A判サイズ 表紙カラー 本文100ページ白黒

実施日：2005年8月25日（発刊日）

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区大塚）

従事者の人数：7名

受益対象者の範囲：不特定

受益対象者の人数：多数

支出額：1,733,090円（「事業収支明細書（その4）」を参照）

⑤ 事業名：ロゴマークのリニューアル

内 容：2005年はNPO認証5周年であり、認定NPOの認証を受けたことを機に、また、日本国際博覧会での国際シンポジウム開催を記念して、ロゴマークのリニューアルを計画し公募しました。

3名より合計5作品の応募があり検討しましたが、リニューアルせず現行のロゴマークを使用することにします。

実施日：通年

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区大塚）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：RDA Japan 会員およびその他不特定

受益対象者の人数：不特定多数

支出額：0円（収入および支出はなし）

(2) 人材育成（指導者養成）事業**① 事業名：スペシャルオリンピックス 乗馬コーチ養成のための講習会**

内 容：スペシャルオリンピックスの乗馬コーチ養成を目指した内容の講習会を9月12日～13日の2日間にわたって、乗馬指導をするインストラクター、障害者乗馬に関心を寄せる医療関係者・教育関係者を対象に実施いたしました。参加者は、35名でした。

講師は、「人と馬との優しい関係」の講演者としてお招きしたFRDI（国際障害者乗馬連盟）会長であり、特殊教育専門家として障害者乗馬活動に長年関わっておられるGundula Hauser氏が務めてくださり、知的障害の騎乗者に対するアプローチに重点を置いた実技と講義を行いました。

実施日：2005年9月12日～13日

場 所：神奈川県立スポーツ会館、横浜乗馬倶楽部（神奈川県横浜市）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：日本国内で乗馬指導をするインストラクター、障害者乗馬に関心を寄せる医療関係者・教育関係者

受益対象者の人数：35名

支出額：358,229円（「事業収支明細書（その5）」を参照）

② 事業名：RDAインストラクター認定審査

内 容：柴尾小百合氏の資格認定審査を10月29日に口頭審査、12月4日に実技審査を行ないました。審査員と記録は池辺有紀理事（人材育成委員会委員長）と太田恵美子専務理事（同委員）でした。

池辺委員長から「天候不良のため実技審査が実施できなかったため、時期をあらためます」と報告があり、実施時期を調整し再審査を行います。

なお、「事業収支明細書（その6）」の資格認定に関する事業収支明細書は、2004年度に実施した井原昌代氏と野口陽氏の登録料による収入および認定書類を送付した際の支出に関するものです。

実施日：2005年10月29日、2005年12月4日

場 所：恵光園ヒボクラブ（福岡県豊前市）、宇部乗馬クラブ（山口県宇部市）

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：RDA Japan 会員

受益対象者の人数：3名

支出額：41,720円（「事業収支明細書（その7）」を参照）

(3) 人材育成（ボランティアヘルパー養成）事業

① 事業名：第27回 RDAヘルパーのための講習会

内容：5月7日と8日に、「第27回 RDAヘルパーのための講習会」を帯広畜産大学（北海道帯広市）にて開催しました。

参加者は16名で、うち1名が1日のみの参加でした。帯広畜産大学の学生、近隣の鹿追町ライディングパークスタッフ、静内農業高校の教諭など多くの皆さんが参加くださいました。

講師と運営は中田正子インストラクターと、大阪の理学療法士の山川佳延氏が担当しました。また、帯広畜産大学の柏村文郎先生と古村圭子先生、帯広畜産大学の学生の皆さんたちが運営スタッフとして多大なご協力をいただいたことに加え、よく調教された優秀な馬たちによって、たいへんスムーズな運営ができました。感謝申し上げます。

※ 受講生からのアンケート（一部抜粋）

<理解できたこと>

- ・ 乗り手の状況を見て、どこを見て判断すればよいのか、ポイントがわかった。
- ・ 騎乗させてはいけない障害者について理解できた。
- ・ 馬への接し方が少し。
- ・ 障害者の乗馬と下馬の際、体の運び方や乗っている際の体勢の修正の仕方などヘルパーの重要性。
- ・ レッスンプランの重要さ。
- ・ 実地での馬への乗せ方、ヘルプの仕方など。
- ・ なんとなくよさそうだからやるのではなく、それをやることによって、どうなるかを考えるということ。
- ・ 障害者に、どれだけ馬と接することで効果があるか。
- ・ 障害者を乗せるために、ヘルパーの人に必要な知識があること。
- ・ 障害によって、どこを注意すればよいか。
- ・ これまでは漠然とした考え方でサイドウォーカーをしていたが、今回、実際に子どもたちを乗せながら説明していただいたことで、一つ一つの行動の気をつけるべき点、気をつける理由が納得、理解できた。
- ・ 初めて馬に乗ったので、乗り手の気持ち（不安な感じ）がわかった。
- ・ ヘルパーの役割がどれくらい重要とされているか。
- ・ ヘルパーは馬のことも障害者のことも、よくわかっていないとダメだと実感した。
- ・ 一人ひとり、一頭一頭、個性があつてとても難しいと思った。
- ・ 障害者との接し方や指導の仕方など。
- ・ インストラクター、リーダー、サイドウォーカー、それぞれの役割についてと、その仕事内容についてはたいへんに勉強になった。
- ・ 障害についてもまったく知らなかったので、今回の講習会に参加してよかった。
- ・ 障害を持つ子どもたちの乗馬に対するサポートの仕方などは、具体的な説明が多くてよかった。
- ・ 障害者が馬に乗っているときに、どこをどうサポートすればいいか、全てではないがわかった。
- ・ 脳性マヒにはどんな種類があるか。
- ・ どのような障害に対して、どのようなことに注意しなければいけないか、障害者の乗せ方、降ろし方について見てよく理解できた。実際にやってみないとできるかどうか不安だが。

<理解できなかったこと>

- ・ 乗せ方、降ろし方。
- ・ 障害の種類や体勢のバランスが悪くなってしまう理由など。

- ・レッスンの記録をとる際に、みんなの判断基準をどのように統一する化など。
- ・自分がついた障害者のくらいしか乗せ方や支え方がわからなかった。
- ・実際やるのは経験者が多く見ていることが多かったので、実際どうすればよいかわからなかった。
- ・障害に合わせた乗馬の仕方や支え方というのが、いまいちわからなかった。
- ・障害者へ何と声をかけていいのかわからなかった。
- ・障害の種類や、その障害を持った人に対して注意しなければならない点など。
- ・障害についてのお話をもっと聞きたかった。
- ・自分が何気なくしている行動に対して、それがどのような仕組みで動いているのか理解できていないので、障害者がどうしてできていないのかがわかりにくかった。
- ・人によって、障害によって、支持の仕方が異なるので、どのような場合にどのような支持をすればいいか今はわからないので、慣れが必要かと思った。

<印象に残っていることなど>

- ・自分の体をどう動かせば、どんな反応があるのか、自分でもわかっていなかった。
- ・体の大きい乗り手を乗せるには工夫が必要であり、体重制限も必要。
- ・経験が重要。
- ・今回は馬がおりこうさんでした。
- ・馬の世話、綱の付け方、爪の泥の落とし方、ブラッシング。
- ・乗り手の楽しそうな笑顔がとても印象に残り、見ている方も気分がよくなった。
- ・見るとやるとでは、大きな違いがあるなあと。
- ・自分でできることは自分でやらせる。甘やかしはダメという気持ちも必要なんだなあと。
- ・なんとなくよさそうではなく、どこがいいのか、どうしていいのかを今後考えようと思う。
- ・サイドや後ろについたときに、どこが曲がっているからその姿勢になるのかなど、直すために注意するのは難しいと思った。
- ・サイドで足を支えている人も体力が必要と感じた。
- ・笑顔がうれしかった。
- ・コミュニケーションのとり方の難しさを実感した。
- ・一人ひとりで補助の仕方が違うし、左右でも違っているのもっと参加して障害者を安全に楽しく馬に乗ってもらえるようになりたい。
- ・子どもたちを観察して、目標設定していくことの大切さがわかった。
- ・骨の作りや位置を意識してサポートすることで姿勢を改善できた気がした。
- ・障害があって、なかなか外に出られない子どもたちが馬と人とのふれあいで、嬉々としているのがよかった。
- ・ヘルパーも、どんどん実践してからサポートする方がいいと思った。
- ・馬にふれるのも初めてでしたが、ボランティアを続けてサポートできるようになればいいなあと思っている。
- ・意外とたくさん障害者が乗馬に来ていたことに驚いた。
- ・最初は、こわばった表情で乗っていた子が、だんだんほぐれてきて、いい笑顔になっていったのがとても印象的だった。
- ・乗り手のひとりの一日目に来たときと、二日目にゲームをしたときの表情や体の硬直具合の違いが、とってもしっくり出ていてびっくりした。
- ・受講前は、障害者に対する効用はほとんどが心理面に対する働きかけなのかなと思っていましたが、これほど身体機能の改善につながるとは思っていなかった。
- ・今後も継続して勉強していきたいと思う。
- ・個々人の子どもたちの性格や障害などをもっと知らなければと思ったが、知らない人の視点も覚えておく必要があると思った。
- ・自分のひとつひとつの行動が、筋肉や視覚、聴覚といったさまざまな働きのコンプネーションでできあがったものだということを実感した。

- ・障害者乗馬は楽しみの中に状態を改善する訓練が入っていて、とてもよいものだとあらためて感じた。
- ・乗り手の楽しそうな笑顔が一番うれしかったし印象に残ったので、積極的に参加していきたい。

実施日：2005年5月7日～8日

場 所：帯広畜産大学（北海道帯広市）

従事者の人数：10名

受益対象者の範囲：北海道でRDA活動に関心を持つ方

受益対象者の人数：30名

支出額：346,086円（「事業収支明細書（その8）」を参照）

② 事業名：第28回 RDAヘルパーのための講習会

内 容：5月28日と29日に、「第28回 RDAヘルパーのための講習会」を富山乗馬倶楽部（富山県大沢野町）にて開催しました。

参加者は12名で、富山県立養護学校や近隣の福祉施設などの職員、障害を持つ子どもの家族など、たくさんの皆さんが参加くださいました。

講師と運営は太田恵美子氏と中田正子氏の両インストラクターが担当しました。

また、地元の乗馬活動グループ「リトル・トゥリー」の奥澤弘子さん、富山県立養護学校の宮林文代さんが運営スタッフとして多大なご協力をいただき、たいへんスムーズな運営ができました。感謝申し上げます。

※ 受講生からのアンケート（一部抜粋）

<理解できたこと>

- ・RDAを行ううえでのヘルパーの体制。（役割分担や重要性など）
- ・ボランティアの教育（特に馬の扱い方）が重要ということ。
- ・事前の打ち合わせの重要性。
- ・インストラクター、リーダー、サイドウォーカーの関わり方。
- ・今、自分ができることと、今から勉強しなければならないこと。
- ・障害児のサポートの仕方。
- ・インストラクター、ボランティアなどの役割・観察点がわかった。
- ・障害者乗馬の形態の違い。
- ・馬事、医療、ボランティア、それぞれの役割の選択と重要性。
- ・RDAは、どういうもので、どのような活動をし、どのような方を対象として行っているのかわかった。
- ・2日目は実際の乗り手の表情などがよくわかった。
- ・行動と説明が一緒だったので、どこがよくて、どこが悪いのかという点が明確でよかった。
- ・馬のことも考えてあげなければいけないし、障害者のひとりひとりが何をしたいかという点を考えるというところ。
- ・レクンプラン、記録、ボランティアの講習の重要性。

<理解できなかったこと>

- ・障害の度合いに対する知識が足りないので、もう少し学びたかった。
- ・障害の度合いに応じたサポートの方法。
- ・障害全般に関すること。
- ・レベルが高すぎて理解できないことが多かった。
- ・今後の方向を考えると、あらためて難しさを痛感した。
- ・専門用語。
- ・どんな形、どんな姿勢での乗り方が、その乗り手に合うのか。
- ・特にないが、自分の勉強として、それぞれの障害に合った関わり方、注意点など理解し

ていきたい。

<印象に残っていることなど>

- ・講師の言葉は、ひとつひとつが理解しやすく、納得できるものだった。
- ・いろいろな障害を持つ人の体験乗馬会に参加できてよかった。
- ・すべてが印象に残っている。
- ・乗馬に関することをもっと理解してれば、さらに勉強になったと思う。
- ・ボランティアの責任の大きさを知った。
- ・今回の講習会を機に、RDAへの参加意識が大きく変化した。
- ・講師、リトルトゥリー、富山乗馬クラブの皆さんの笑顔とバイタリティーはとても素敵だった。
- ・障害者の範囲の広さ。
- ・基本、基礎の勉強しながらやっていきたいと考える。
- ・実際に乗馬療法を行うことは現状では難しいが、PTとして、どんなふうに関わっていけるか考えてみたい。
- ・障害者・児の親子が、すっごく元気で明るいイメージがあった。
- ・馬を怖がる子が少なく、抱きついたり自然に親しんでいたのがよく、表情が和らいだように見えてすごいと思った。
- ・自分の通常のレッスンの見直す機会になり、自分自身も目標を持っていきたい。

実施日：2005年5月28日～29日

場 所：富山乗馬倶楽部（富山県大沢野町）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：北陸地域でRDA活動に関心を持つ方

受益対象者の人数：30名

支出額：342,953円（「事業収支明細書（その9）」を参照）

③ 事業名：第29回 RDAヘルパーのための講習会

内 容：6月25日と26日に、「第29回 RDAヘルパーのための講習会」を山形県立総合コロニー希望が丘（山形県川西町）にて開催しました。

参加者は17名で、2日間の参加は15名でした。昨年に引き続き、山形県立総合コロニー希望が丘の職員や理学療法士、作業療法士、スタッフを中心に、障害者乗馬の活動に取り組む社会福祉施設の職員、障害を持つ人の家族など、近隣の皆さんが多く参加くださいました。

講師と運営は太田恵美子氏と池辺有紀氏の両インストラクターが担当しました。

また、山形県立総合コロニー希望が丘の長谷川昌宏さん、松山舞美さん、天賀幸徳さん、長谷川歩さんが運営スタッフとして多大なご協力をいただき、たいへんスムーズな運営ができました。感謝申し上げます。

※ 受講生からのアンケート（一部抜粋）

<理解できたこと>

- ・ヘルパーや馬の役割、乗り手の課題を見つけること。
- ・基礎的なことがよくわかってなかったのも、とても勉強になった。
- ・乗馬をすることでのコミュニケーションの素晴らしさが実感できたように思う。
- ・乗馬下馬のテクニック。
- ・実際に体験乗馬会をして、乗り手の笑顔を見て障害者乗馬の効用がわかった。
- ・ヘルパーの役割とトレーニング方法。
- ・実践的な講習会だったので、サイドウォーカーのつき方、乗馬下馬方法などすごく理解できた。
- ・馬の様子から危険かどうかを判断する。

- ・インストラクター、リーダー、サイドウォーカーと立場の違いで感じるものが異なるので話し合いの大切さ。
- ・乗馬というものが障害者に与える影響。(心理的、身体的)
- ・障害者乗馬の形態。
- ・ヘルパーの役割、心得がとてもよくわかった。
- ・乗り手、馬への気配り、その変化にどれだけ早く細かく気がついて対応できるかが大切だということが一番よく理解できたと思う。
- ・親が子どもの限界を決めてはいけないということがわかった。
- ・バランスの悪い人や股関節が開かない人をどう乗せるのかわかった。
- ・各個人に合った馬を使用しなければならないこと。
- ・乗馬させるときの乗り手と馬の状態の必要性。
- ・乗馬の効用と馬の特性。

<理解できなかったこと>

- ・今回、車椅子の人がいなかったので、乗り降りなどの実践ができなかったのが残念だった。
- ・レスンプランの中に、どのような方法があるのかが、もう少し知りたかった。
- ・障害に応じた実践。
- ・専門的な用語を使った説明。
- ・レスンプランについて。
- ・馬具について。
- ・もっと多くのケースの乗馬、下馬、サイドウォーカーの仕方を実践できたなら理解できる範囲が広がったと思う。
- ・馬の嫌がることをもっと知っておきたい。
- ・もしもの落馬のときとか、どうすればいいんだろう？
- ・鞍などの道具は実物を初めて見たので、説明があればよかった。
- ・馬具の付け方や外し方、使用方法などをもっと詳しく勉強したかった。
- ・どの程度、障害者を介助すればいいのかあまりわからなかった。
- ・重複障害、重い障害を持つ人への介助方法。

<印象に残っていることなど>

- ・乗り手の課題が少しでも達成して、楽しい顔をしているのを見たときに感動した。
- ・馬に関することをどんどんチャレンジさせていくことで、障害者の能力を引き出し出していることがとてもよくわかった。
- ・重度の障害者でも乗馬ができること。
- ・サイドウォーカーも、ただ横にいればいいというわけではなく、乗り手のことに気を使ったりなど、とても大切な役割なんだと思った。
- ・講師の説明がとても上手であり理解しやすかった。人に教えるには自分が正しい知識を持っていなければならないこと。
- ・普段と違う雰囲気、違う刺激だったので、こういうやり方もあるということ強く感じた。ただ、これが正しいというのが難しいと思った。
- ・初挑戦してできたときの利用者の反応と、保護者の驚き。
- ・乗馬体験のお手伝いをしたとき、体験に来ている人たちが楽しい人たちが多かったので自分まで楽しく参加することができた。
- ・馬に初めて乗ったことがすごく嬉しかった。講師が言っていたリラックス効果などが肌身で実感できた。
- ・障害者の方々に接するのは初めてだったので戸惑ってしまったが、曲がったときに笑ってくれて本当に嬉しかった。
- ・馬や乗り手に無理をさせてはいけないということではなく、ボランティアで介助する人にも無理をさせてはいけないというのがわかった。

- ・自分に障害者乗馬についての知識があまりなかったので全体的に漠然としか理解できず、もっと学習する必要があると感じた。
- ・初めて自分が馬に乗ってみて乗馬したときの気持ちがわかり、これからの活動に活かしていきたいと思う。
- ・馬の身になって考えること。
- ・希望が丘利用者の乗馬中の表情がよかった。

実施日：2005年6月25日～26日

場 所：山形県立総合コロニー希望が丘（山形県川西町）

従事者の人数：7名

受益対象者の範囲：山形県立総合コロニー希望が丘で障害者乗馬の活動をされている方、山形県置賜地方でRDA活動に関心を持つ方

受益対象者の人数：45名

支出額：413,894円（「事業収支明細書（その10）」を参照）

④ 事業名：第30回 RDAヘルパーのための講習会

内 容：10月15日と16日に、「第30回 RDAヘルパーのための講習会」を佐々木牧場（岩手県）にて開催しました。

参加者は18名で、1日のみ参加は4名でした。

講師と運営は太田恵美子氏と野口陽氏の両インストラクターが担当しました。

また、パカポコクラブの佐々木芳久さん、地元のNPOハンズの皆さんが運営スタッフとして多大なご協力をいただき、たいへんスムーズな運営ができました。感謝申し上げます。

※ 受講生からのアンケート（一部抜粋）

<理解できたこと>

- ・ヘルパーとして参加者にすべきこと、してはいけないこと、ささやかな部分の大切さを実感できた。
- ・自分がまずわからなければ、補助することができないこと。
- ・サイドウォーカーでの体の押さえ方、状態よっての押さえ方。
- ・馬にも子どもにもコントロールされないこと。
- ・馬の気持ちを感じる事が大切だということ。
- ・馬の世話。
- ・低、高緊張の子への対応の仕方。
- ・馬を引くときの注意点。
- ・サイドウォーカーの付き方。
- ・自分の無知さ。
- ・馬の扱い方。
- ・乗り手へのアプローチの仕方。
- ・馬の動きを乗り手に伝える方法。
- ・それぞれの障害者のタイプごとの乗り方。
- ・リスクマネジメントの必要性、重要性。
- ・馬に乗るだけでなく、馬房での作業することも楽しみになるということ。
- ・障害によって乗馬のやり方を変えること。
- ・バトンや指を使った背筋の伸ばし方。

<理解できなかったこと>

- ・リーダーとしての立場で馬を思うように誘導するところまでできなかったし、ヘルパーとの役割分担（声をかけるなど）が難しかった。
- ・頭で理解していてもやってみるとできないので、今後、体験しながら学んでいきたいと思う。
- ・泥落としをやってもらっていたようなものだったので、もっと自分自身で学びたかった。

- ・交代が不明確。
- ・ケースバイケースで対応できるようになるには、実践を積むしかないのでしょうか。
- ・馬の調子の良し悪しは、どこで判断するのか。
- ・リーダー、サイドウォーカーについて指導する時間を長くしてほしい。

<印象に残っていることなど>

- ・すべてが自分の五感を刺激するような体験だった。
- ・馬にも参加者に対しても「自分にできない約束はしない」という責任感の大切さを知ることができた。
- ・馬のことをたくさん教えてもらえてうれしかった。
- ・姿勢を直すこと一つにしても乗り手一人一人が違い、ちょっとしたことでとてもよくなるのが印象的だった。
- ・馬に負けてしまっていたので、強い姿勢で妥協しないようになりたいと思った。
- ・馬の表情の差などが見られたこと。
- ・準備、後片付けが大切なことが身をもって知れた。
- ・乗馬によるさまざまな乗り手の変化を再認識した。これからの活動を考え直す機会になった。
- ・騎乗後の障害者のよい変化。
- ・馬の状態を把握するようにする。
- ・乗馬をする前に、慣らすために歩かせること。
- ・もう少し上級の講習会に参加してみたいと思う。

実施日：2005年10月15日～16日

場 所：佐々木牧場（岩手県花泉町）

従事者の人数：7名

受益対象者の範囲：東北地方でRDA活動に関心がある人

受益対象者の人数：45名

支出額：301,715円（「事業収支明細書（その11）」を参照）

⑤ 事業名：第31回 RDAヘルパーのための講習会

内 容：11月12日と13日に、「第31回 RDAヘルパーのための講習会」をどさんこファーム（北海道）にて開催しました。

参加者は21名で、1日のみ参加は1名でした。

講師と運営は太田恵美子氏と中田正子氏の両インストラクターが担当しました。

また、どさんこファームのの皆さんが運営スタッフとして多大なご協力をいただき、たいへんスムーズな運営ができました。感謝申し上げます。

※ 受講生からのアンケート（一部抜粋）

<理解できたこと>

- ・映像や講義で聞いてはいたが、実際に見てはじめてのうちはクニャクニャしていたり緊張の強かったりした乗り手が、次第に自分で背筋を伸ばしたりバランスをとったりして介助するほうも楽になることがよくわかった。
- ・個々の自分の役割をしっかりと果たすことの大切さを学んだ。
- ・頭ではわかっているでも実際にやってみるものの難しさ、瞬間の判断力や周りの気遣いをしなければならぬことがわかった。
- ・表情や体の変化が見てよくなっていくのが実感できた。
- ・背中に乗るだけでなく、馬の体のお腹や首などいろいろな場所を使えること。
- ・乗馬、下馬の方法。
- ・会話の仕方。
- ・「乗り手自身が主体的になる」「意識を持たせる」というような働きかけが大切なことがわかった。

- ・ 出会い、経験で変わる。
- ・ 必要以上に手をかけないことが、その乗り手にとっても楽しいことだということ。
- ・ 具体的なサポート法。(支える部位、馬からの下ろし方などなど)
- ・ 馬を媒体として、乗り手にどんな力を付けていくことが可能か。
- ・ 乗り手のサポートで、思っていたのとは逆だったということ。(しっかり押さえるのではなく、面で軽く支えるなどなど)
- ・ 体の機能が、それぞれの乗り手によって違うので、「アドリブ力」が大切と思った。
- ・ 補助しすぎないこと。
- ・ ヘルパーは自立の手助けであること。
- ・ すべてが成功するものではないこと。
- ・ 馬の体全部を使ったストレッチ効果など勉強になった。
- ・ 障害者と馬が接することによって、子どもたちが体や表情が変化していくのがよくわかった。
- ・ 健常者と障害者の違い(言い方は悪いですが)が理解できていたつもりだったのに、全然わかっていなかった。
- ・ 嫌がってもさせなきゃいけないことや、体力的に無理をさせないことなど理論や体験を通じて理解できた。
- ・ サイドウォーカーの役割。
- ・ 息子の大好きな馬という動物の素晴らしさ。そして生き物と接することの大切さ、いかに自然の動物から学べることが多いかを痛感させられた。
- ・ 健常者には簡単なことでも、障害者にとってはとても難しいことが多いという体験ができた。
- ・ サイドウォーカーの重要性を実感できた。
- ・ 乗馬することで、身体とメンタル面でリハビリ効果があることがわかった。

<理解できなかったこと>

- ・ 見て「なるほど!」と思った介助法を実際に数多く手がけて覚えたかった。
- ・ 安全に乗ることの大切さはわかったが、実際にどのような乗せ方やおろし方があるのか。
- ・ 障害についてのこと。
- ・ どのように乗せたらいいのかわからないので、大まかにでも資料などがあれば嬉しい。
- ・ 障害に合わせて、どう対応すればいいか判断が難しい。
- ・ 個人の障害の程度が分からず、今後の課題と思った。
- ・ いろいろな障害にあわせた対応がわからなかった。
- ・ 障害といっても、その形態はさまざま、乗り手の状態を第一に把握しなければならず、理解できないというより「一番難しい」と思った。
- ・ 実践の回数が少なかったので、きちんとしたサポートのやり方が体感できなかった。
- ・ 恐怖感を取り除く方法やパニック対策。
- ・ 疲労感と嫌気の違い。
- ・ 乗り手が手を離したときに、無理にでもつかまらせるときと、そうしてはいけないときの違いがわからなかった。
- ・ サイドウォーカーの細かいサポートの仕方。(足首を引くのか、肘を押すのか)
- ・ 乗り手に適切な馬への乗せ方、おろし方が自分では判断できない。
- ・ 騎乗者に、どのような言葉をかけると効果的に乗せられるかということ。
- ・ 一人一人の障害の程度が違うので、それに対応するのが難しい。
- ・ 座位をとれない人たちのサポートがいまいちわからなかった。

<印象に残っていることなど>

- ・ 回数多く乗馬できる機会があれば、本当に乗馬療法が有効となっていくと、子どもたちの変化、喜んでいる顔を見て「充実させたい!」と思った。
- ・ いろいろなパターンの障害と、それに伴う介助法をどんどんやりながら覚えていきたい。

- ・“実際”を多く見、多く触れていきたいと思う。
- ・講師たちを見て、経験の多さ、声のトーン、分かりやすく伝えることがとても上手だと感じた。
- ・子どもたちの現状の変化がとてもよかった。
- ・自分の不注意によって他人に迷惑をかけてしまったり危険なことを引き起こすことにもつながるので十分に気をつけたいと思った。
- ・骨盤がずれている人が簡単なストレッチで平行になったことに驚いた。
- ・初めは泣いていた乗り手が、2周目から変化がどんどんみられたこと。
- ・乗馬の前と後で。体の状態と顔の表情の違いにびっくりした。
- ・乗り手の表情が素晴らしかった。
- ・とにかく、一緒に楽しめたのが嬉しかった。
- ・みんなの表情が見る見る変わって、笑顔になっていったこと。
- ・子どもの変化。乗る前と乗った後の違い。あっという間に様子が変わったことが驚きだった。
- ・「プラスになるだけではなく、マイナスになることもある」ということも忘れてはならないと思った。
- ・短時間で子どもの表情が変わったり、姿勢がよくなったりしたこと。
- ・サポートにしすぎは意味がないこと。
- ・劇的に変化する身体と表情。
- ・サクラ号が、素晴らしい馬であることに気がついた！
- ・子どもたちの表情の変化が見ていてとても楽しかった。
- ・子どもたちが乗る前と降りた後の違いにびっくりし感動した。とても嬉しかった。
- ・子どもたちが喜んでる姿を見て、自分の大好きな馬たちが社会に貢献しているんだなあと思うと嬉しかった。
- ・1日目の講義のときにDVDで乗り手が変化していく様子を見てもあまり実感がなかったが、2日目の実践で変化を目の当たりにしてすごい効果だと感じた。2～3周くらいで、よく、あれだけの変化があると思った。
- ・両親の喜ぶ姿が印象的だった。
- ・札幌での講習会開催を希望する。
- ・ふだん接している子どもの表情が、とても良くなっていく変化ぶりを見ることができた。
- ・障害を持つ子どもを持ったから巡り会うことのできたこの機会、また、このリハビリでの効果が少ない時間に出ていたことが見られたことなど、自分たちの子どもを通じて大切なことを教えられた。
- ・少しでも障害に対してかかわり、お手伝いをしていきたいということを再確認させてもらった。
- ・乗るときにはすごく怖がっていたり嫌がっていたりしていた子どもが、乗って1～2分もしないうちにとっても表情がよくなり変化が見られたことに驚きと嬉しさがあった。
- ・アイマスクでの乗馬。
- ・函館でのインストラクターのための講習会の開催を希望。
- ・嫌がっていた子どもが最終的にとても楽しそうに乗っている姿が印象に残った。
- ・乗馬を終えた後の身体の動きの変化が印象的だった。
- ・最初は強張っていた表情が笑顔に変わったこと。

実施日：2005年11月12日～13日

場 所：どさんこファーム（北海道函館市）

従事者の人数：7名

受益対象者の範囲：北海道地方でRDA活動に関心がある人

受益対象者の人数：50名

支出額：349,701円（「事業収支明細書（その12）」を参照）

(4) 交流事業

① 事業名：RDA交流会

内 容：総会終了後、RDA活動に参加する皆さんの親睦を目的に交流会を実施しました。

実施日：2005年4月24日

場 所：カフェテリア本郷（東京都文京区本郷）

従事者の人数：1名

受益対象者の範囲：RDA活動に参加する人

受益対象者の人数：19名

支出額：51,680円（「事業収支明細書（その13）」を参照）

② 事業名：日韓・フレンドシップ乗馬交流

内 容：4月30日から5月3日の4日間、日本から26名（障害者・児8名、家族7名、ボランティア10名、乗馬雑誌の同行記者1名で韓国を訪れ、「日韓フレンドシップ乗馬交流」を実施しました。

この事業は、文字どおり「乗馬活動による日本と韓国の親善」を目的としたもので、2005年は日韓国交正常化40周年にあたり、「日韓友情年」であり、外務省の「日韓友情年2005記念事業」としての認定を受けて実施しました。

公園のような緑多い広大な敷地の中にあり、屋内馬場が完備され、湿度にも気を配る厩舎は広く、人と馬にとって整った環境がうらやましいほどの「サムスン馬術センター」、サムスンが社会貢献のひとつとして聴導犬や盲導犬などの訓練に取り組む「パートナードッグの訓練センター」、日本を模範にしたという競馬場「ソウル競馬公園」などを見学しました。

爽やかな青空の下、広い緑の芝生の上で行いました。

馬上でのゲームも交えての乗馬会は、日韓のライダーたちはもちろん、サポートするボランティアヘルパーたちも満面の笑顔で、100名を超える日韓の参加者たち全てが『乗馬の楽しさは国や言葉の違いを乗り越える』ことを共感した瞬間でした。

出発前には、日本と韓国との間で政情不安になり、日本の参加者からも危ぶむ声があったり、韓国側でも実施に向けて不安もあったように聞きます。

しかし、私たちが活動を通じて感じている『馬を愛する心があれば、障害のあるなしに関わりなく乗馬は楽しい』ということと同様に、『馬を愛するお互いの心が、今まで築いてきた信頼を確認し、絆をさらに強いもの』にすることができた「日韓フレンドシップ乗馬会」となりました。

親睦を深めた「日韓フレンドシップ記念式典」では、キム・チョン・ウン／サムスン乗馬団常務から「サムスンが障害者乗馬活動に取り組み始めた2001年以来のRDA Japanからのサポートに対するお礼と、訪韓歓迎の挨拶」があり、本好茂一RDA Japan理事長の“日本と韓国との馬文化の長い歴史”を交えた挨拶で、場内を一層和やかな雰囲気になりました。

そして、今回の“目玉”のひとつである「日韓友好協定」の調印式を行ないました。

この協定は、

- (1) 教育と研究を目的とした人事交流
- (2) 交流プログラムとライダーの相互援助の開発
- (3) 共同制作した資料またはプログラムに関する文献の共有

などを文章化して確認し合うものです。

また、日本から持参した車椅子（5台）と、記念ポロシャツの贈呈式を行ない、おいしい食事をとりながら懇親のひとつときを持ちました。

今回の「日韓フレンドシップ乗馬交流」、そしてRDA JapanとRDAサムスンとの姉妹提携を契機に、日本と韓国との協調関係を軸にしてアジアやオセアニアの各国・各地域の

皆さんとも交流を密にし、障害者乗馬の活動をアジア・オセアニア地域にしっかりと広げてまいりたいと思います。

なお、この「日韓フレンドシップ乗馬交流」は、財団法人日韓文化交流基金様のご支援をはじめ、大韓航空様など多くの皆さまのご協力をいただきました。

実施日：2005年4月30日～5月3日

場 所：サムスン馬術センターなど（大韓民国ソウル市）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：日本および韓国で障害者乗馬に関わる人

受益対象者の人数：100名

支出額：3,625,196円（「事業収支明細書（その14）」を参照）

③ 事業名：モンゴル乗馬ツアー

内 容：6月11日と15日に、「モンゴル乗馬ツアー」を実施しました。

このツアーはRDA Japan会員の北澤隆さんのご支援により企画いたしました。

モンゴルでの乗馬トレッキングを何度も経験されている北澤さんの『全国各地でRDAに参加している皆さんにも、モンゴルの雄大な草原での乗馬を楽しんでもらいたい』という思いがきっかけです。

モンゴル滞在中の3日間は遊牧民の案内で乗馬トレッキングに出かけ、青空と草原が果てしなく広がる風景のもと、障害を持つ人、その家族、ボランティアの22名の皆さんは日常と異なる大空間での乗馬の機会を得て、有意義な体験をしました。

また、自然や馬と共に生きる地元モンゴルの遊牧民との交流を図ることもできました。

実施日：2005年6月11日～15日

場 所：モンゴルの大草原など

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：日本国内で障害者乗馬に関わる人

受益対象者の人数：22名

支出額：2,754,777円（「事業収支明細書（その15）」を参照）

④ 事業名：RDAサマーキャンプ

内 容：私たちの活動テーマである「障害のあるなしにかかわらず、みんなで乗馬を楽しみたい……。」

そのような思いで、2004年度に実施した「RDAサマー乗馬キャンプ」を2005年度にも行いました。参加者は乗り手24名、家族30名、付添い保護者・ボランティア11名の合計65名でした。

全国各地で乗馬をしている障害を持つ人や家族、ボランティアが、日ごろの乗馬レッスンの環境とは異なる森や湖のほつりを夏空のもとでさまざまなスポーツを楽しみ、夜には交流を深めたり情報や意見を交換しあったりする宿泊訓練を行い、「次へのステップと課題」の発見につなげることを目的としました。

また、他のグループの騎乗者や家族、ボランティアどうしの交流を深めることができ、「全国に同じ思いの仲間がいる」ことを実感し確認することができました。

なお、このサマーキャンプは、笹川スポーツ財団「SSFスポーツエイド」様の助成をいただいで実施しました。

- ・交流を通じて、同じ思いの仲間が全国にたくさんいて、それぞれの思いで活動していることをお互いが理解しえました。
- ・乗馬だけではなく、ローピングやカントリーダンス、釣りやボートなどさまざまなリクリエーションスポーツの体験ができました。
- ・障害を持つ騎乗者たちはできるだけボランティアと同じ部屋で寝起きし、馬房掃除な

どをプログラムに入れることで独立心を養うことができました。

<第1日>

- ・集合後、ウォーミングアップを兼ねて沢城湖畔を乗馬
- ・乗馬の待ち時間などで、各自、釣りやボート
- ・夜は Rowdy 長谷川さんによる「ローピング講習会」
- ・食事をしながら各自の乗馬活動や生活などについて語り合う

<第2日>

- ・男組は早朝より馬房掃除
- ・乗り手や家族、ボランティアなどともに、近くの小高い山にトレッキング
- ・乗馬の待ち時間などで、各自、釣りやボート
- ・夜は渡辺りをさんによる「カントリーダンス講習会」

<第3日>

- ・男組は早朝より馬房掃除
- ・乗馬版イス取りゲーム
- ・キャンプ終了式

実施日：2005年8月16日～18日 3日間

場 所：沢城湖ハートランド牧場（長野県飯田市大瀬木2627）

従事者の人数：10名

受益対象者の範囲：日本国内で障害者乗馬に関わる人

受益対象者の人数：65名

支出額：2,156,462円（「事業収支明細書（その16）」を参照）

⑤ 事業名：クリスマスカードの送付

内 容：世界各国の関係団体および有識者などとコミュニケーションを図ることを目的に、クリスマスカードを送付しました。

実施日：2005年12月

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区）

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：世界各国のRDA関係者

受益対象者の人数：36通（送付数）

支出額：8,030円（「事業収支明細書（その17）」を参照）

⑥ 事業名：第1回 RDA Japan 写真コンテスト

内 容：RDA Japan の全国の活動グループにおいて、騎乗者は年間延べ約8000名、彼らとともに活動するボランティア参加者は年間延べ約6500名です。これは、RDA Japan の活動目的のひとつ「障害者乗馬活動の普及」が、全国各地で確実に実を結びつつある証ととらえております。

そして、その日々の活動や競技会、イベントなどで記録した写真も数多くあり、また、記録の意義を超えて「馬上の笑顔の記憶」として芸術的な作品も多く見受けられます。

そこで、素晴らしい写真を公募して「RDA Japan 写真コンテスト」を開催しました。応募いただいた参加者数は20名で、作品数は85点でした。

<賞>

- | | |
|-------------|---------------|
| RDA Japan 賞 | 志賀桂一『家族』 |
| 審査員特別賞 | 津田和呂『癒し』 |
| カバロ東京賞 | 小山建『こんなんどう？』 |
| 入 賞 | 秋本美幸『こっち見て』 |
| | 尾張智一『さあ 行こう！』 |

寒川彰久『お兄ちゃんといっしょ』
 後藤隆之輔『楽しい！！』
 恵光園ヒボクラブ『気持ちを合わせて』
 坂本正子『祭りだ！ 祭りだ！！』
 佐々木美江『姿勢のチェック』
 佐野恵子『Splendid！』
 新野沙織『スマイル』
 宮坂和磨『僕たちの愛馬 “チロル号”』
 努力賞 飯岡千絵『頑張った！！』
 伊藤真弓『表現』
 関根暁夫『早足』

<審査員>

審査員長 木村恵一氏 写真家、社団法人日本写真家協会常務理事
 審査員 江面俊夫氏 写真家、博報堂プロダクツ エグゼクティブフォトグラファー
 審査員 本好茂一氏 日本獣医畜産大学名誉教授、RDA Japan 理事長
 審査員 吉永みち子氏 作家、RDA Japan 副理事長

実施日：2006年3月2日（審査日）

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区大塚）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：日本国内で障害者乗馬に関わる人

受益対象者の人数：20名

支出額：165,870円（「事業収支明細書（その18）」を参照）

(5) 国際シンポジウム「人と馬との優しい関係」および関連事業

① 事業名：「愛・地球博」損保ジャパン 企業ブースにおける活動パネル展示

内 容：6月19日～25日の6日間、長久手会場内の地球市民村における、市民活動を紹介する展示コーナー「損保ジャパン わいわい掲示板*1」において、RDA Japan の活動紹介パネルを掲示しました。また、「おさんぼジャパン*2」に設けられたモニタにおいて、活動紹介のスライドショーも上映しました。

24日には、地球市民村内の交流ホールにおいて活動記録写真の展示を行い、来場者個人個人に活動を説明しました。

期間中には、RDA Japan 活動案内チラシ、「人と馬との優しい関係」の案内チラシを配布しました。

損保ジャパン記念財団の田中皓専務理事からお声掛けをいただいて実施に至りました。

*1 損保ジャパンの環境・社会貢献の取り組み、協働しているNPOや損保ジャパン環境財団が活動支援する学生たちの取り組みをパネル展示などで紹介するコーナー。

*2 季節のうつろい、食のつぼん、暮らしのつぼん、つぼんの日など全国の風物詩や風景を「写真+コメント」で投稿された日本各地からの作品を掲示し"おさんぼ感覚"で楽しむコーナー。

実施日：2005年6月19日～25日（6日間）

および6月24日（金）

場 所：2005年日本国際博覧会「愛・地球博」 長久手会場 地球市民村（愛知県長久手町）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：世界各国の人々

受益対象者の人数：多数

支出額：65,437円（「事業収支明細書（その19）」を参照）

② 事業名：名古屋けいば・冠レース

内 容：国際シンポジウム「人と馬との優しい関係」の開催を記念して、名古屋競馬で冠レースを実施しました。

競馬専門紙や勝馬投票券にはレース名が掲載され、発走時には RDA Japan の活動についてアナウンスしていただきました。

- ・レース名：RDA人と馬との優しい関係開催記念
- ・発想時刻：2005年9月5日（月） 第5レース 午後1時
- ・プレゼンター：本好茂一氏（RDA Japan 理事長）
上田真義氏（RDA横浜所属ライダー）
高田華羊氏（ 〃 ）
望月健氏（ 〃 ）

実施日：2005年9月5日

場 所：名古屋競馬場（愛知県名古屋市）

従事者の人数：7名

受益対象者の範囲：不特定

受益対象者の人数：多数

支出額：92,772円（「事業収支明細書（その20）」を参照）

③ 事業名：国際シンポジウム「人と馬との優しい関係」

内 容：今回の国際シンポジウム「人と馬との優しい関係」は、2005年日本国際博覧会「愛・地球博」を会場に、FRDI（国際障害者乗馬連盟）に加盟する国々の人々、日本国内で障害者乗馬を実践する人々、ウマ関係団体や関係する人々などと連携して、「ウマに対する理解と共感を深め」、そして、再び「ウマと人々がパートナーとして深い関わりを持つ環境」を探求し、「人と馬との優しい関係」を広く知らしめることを目的として開催いたしました。

FRDI（国際障害者乗馬連盟）から後援をいただき、株式会社クリニコ様、ジェーシーアール株式会社様、大日本製薬株式会社様、乗馬ライフ（オーシャンライフ株式会社）様から協賛をいただき実施いたしました。

【国際シンポジウム】

第1日「馬は優しい動物」 馬について解説し、馬に対する理解と共感を深める

- ・本好茂一氏（日本獣医畜産大学名誉教授、RDA Japan 理事長）
「日本における人と馬のあらし」
- ・青木修氏（日本装蹄師会）
「ヒトはなぜウマに乗ったのか？ ～母なる自然が作り出した絶妙な体バランス～」
- ・近藤誠司氏（北海道大学教授、RDA Japan 理事）
「我が国の在来馬 ～その有用性、特質および今後～」
- ・Jo Pringle 氏（英国、RDA UK、理学療法士）
「馬がライダーを助ける関係
～障害のあるライダーと馬との前向きなパートナーシップの築き方～」
- ・Sharon May Davis 氏（オーストラリア、ホースセラピスト）
「馬の骨格について」

第2日「馬と文化」 馬が及ぼす歴史や文化などを示し馬の有用性や優秀性を考察する

- ・吉永みち子氏（作家、RDA Japan 副理事長）
「ニッポン人と馬」
- ・小林皓正氏（フリーアナウンサー）
「お馬がだんだん遠くなる」
- ・清水唯弘氏（歴史騎馬文化研究家）
「日本の古典馬術」

- ・太田敏範氏（近代五種強化委員長）
「オリンピック近代五種競技と馬」
 - ・Mary Longden 氏（オーストラリア、FRDI 教育委員会委員長）
「馬と文化」
 - ・Brooke Dinning 氏（オーストラリア、ニューサウスウェールズ大学、博士候補）
「社会学の観点からみた障害者の乗馬活動」
- 第3日「馬と健康」 心身の健康におよぼす馬の働きなどを考察する
- ・Gundula Hauser 氏（オーストリア、FRDI（国際障害者乗馬連盟）会長）
「治療教育的軽乗と乗馬（REVR）を中心とした乗馬セラピーについて」
 - ・徳力幹彦氏（日本大学教授、RDA Japan 理事）
「障害者を乗せる馬は幸せなのだろうか？」
 - ・Amy Jiyoung Lee 氏（韓国、RD Samsung、理学療法士）
「韓国での乗馬セラピー活動」
 - ・長谷川昌宏氏（山形県、山形県立総合コロニー希望が丘）
「障害者乗馬に期待するもの ～障害者施設の取り組み～」
 - ・柴尾小百合氏（山口県、山口県障害者乗馬の会）
「『パカポコ山口』5年目の挑戦」
 - ・中田正子氏（RDA Japan 理事（人材育成担当）、RDA 横浜インストラクター）
「RDA Japan の活動について」
- 第4日「人と馬との優しい関係」
3日間の講演や発表を通じて、障害者乗馬の効果や課題などをあらためて考察する
- ・慶野裕美氏（愛知県、レモンクラブ）
「広汎性発達障害児における乗馬活動時に行うゲームの効果」
 - ・Wang Wan Hua 氏（台湾、RDAROC (Taipei) 事務局長）
「7歳少女のケーススタディー」
 - ・Nick Rodgers 氏（香港、RDA 香港プロジェクト・マネージャー）
「RDA 香港の活動について」
 - ・Gundula Hauser 氏（オーストリア、FRDI（国際障害者乗馬連盟）会長）
「国際障害者乗馬連盟（FRDI）について」
- 講演者代表によるパネルディスカッション
座長：徳力幹彦氏（RDA Japan 理事）
パネラー：Gundula Hauser 氏（FRDI（国際障害者乗馬連盟）会長）
Carolyn Walker 氏（国際障害者乗馬連盟事務局長）
Jo Pringle 氏（英国）
Mary Longden 氏（オーストラリア）
Nick Rodgers 氏（香港）
Wang Wan Hua 氏（台湾）
Amy Jiyoung Lee 氏（韓国）
太田恵美子（日本、RDA Japan 専務理事）

【ビデオ発表】

- ・恵光園ヒポクラブ（福岡県、社会福祉法人恵光園）
「施設における馬を取り入れた活動」
- ・Rhona Young 氏（英国、作業療法士）
「Horsemastership 変化をもたらすもの」

実施日：2005年9月6日～9日 4日間

場 所：2005年日本国際博覧会「愛・地球博」瀬戸会場（愛知県瀬戸市）

従事者の人数：7名

受益対象者の範囲：世界各国の人々

受益対象者の人数：多数

支出額：5,315,087円（「事業収支明細書（その21）」を参照）

④ 事業名：パンパシフィック・パラエクエストリアン・ビデオ競技会

内容：日本国内はもとより、アジアやオーストラリアで馬術を行っている選手を対象に、ビデオで審査する競技会を実施しました。

参加内訳は、日本15選手、オーストラリア13選手、マレーシア3選手の合計31選手でした。

審査日：2005年9月13日（火）

審査会場：神奈川県立スポーツ会館

審査員：Mary Longden 氏

安岡嘉彦氏

古岡美奈子氏

実施日：2005年9月13日

場 所：神奈川県立スポーツ会館（神奈川県横浜市）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：日本国内およびアジアやオセアニアにて馬術を行っている選手

受益対象者の人数：13名

支出額：229,686円（「事業収支明細書（その22）」を参照）

（6）RDAグッズ頒布事業

① 事業名：RDA チャリティー絵ハガキ作成

内容：「馬」をモチーフに写真や絵画を素材にして作成した絵ハガキを頒布する事業を継続実施しま

した。

実施日：通年

場 所：在庫管理および発送は、RDA Japan 事務局（東京都文京区）

従事者の人数：1名

受益対象者の範囲：不特定

受益対象者の人数：多数

支出額：0円（「事業収支明細書（その23）」を参照）

② 事業名：ロゴ入りトレーナーとポロシャツ、書籍などの頒布

内容：RDA Japan の活動を広く知らしめるとともに、会員間の共通認識の醸成を目指すために RDA Japan ロゴ入りトレーナーとポロシャツを頒布しました。

実施日：通年

場 所：在庫管理および発送は、RDA Japan 事務局（東京都文京区）

従事者の人数：1名

受益対象者の範囲：不特定

受益対象者の人数：多数

支出額：700円（「事業収支明細書（その24）」を参照）

2. 支援・協調事業

① 事業名：ユニット支援

内 容：ユニットおよび準ユニットへの支援として情報提供などを行ないました。

2005年度に登録しているユニットおよび準ユニットは以下の通りです。

静内乗馬同好会ボランティア部会（北海道静内町）

★クローバー（北海道浦河町）

パカポコ・クラブ（岩手県西磐井郡）

★RDA宇都宮（栃木県宇都宮市）

ハロー・ヒポ（群馬県松井田町）

比企ポニークラブ（埼玉県東松山市）

★北区さわやかポニークラブ（東京都北区）

とっぼの会足立ポニークラブ（東京都足立区）

世田谷障害者乗馬の会（東京都世田谷区）

★RDA横浜（横浜市都筑区）

★RDAユニット多摩（横浜市青葉区）

レモンクラブ（岐阜県多治見市）

山口県障害者乗馬の会（山口県宇部市）

★社会福祉法人恵光園ヒポクラブ（福岡県豊前市）

＜以上、ユニット6団体、準ユニット8団体＞

※ ★印が2005年度までにユニットと認定した団体。その他は準ユニット。

実施日：通年

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区）

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：ユニットおよび準ユニットの会員

受益対象者の人数：多数

支出額：45,330円（「事業収支明細書（その25）」を参照）

② 事業名：帝京科学大学の体験乗馬会①

内 容：帝京科学大学（山梨県）が開催した、近隣に暮らす障害を持つ人を対象にした体験乗馬会の実施に協力しました。

実施日：2005年6月19日

場 所：帝京科学大学（山梨県上野原町）

従事者の人数：7名

受益対象者の範囲：帝京科学大学の学生および近隣に暮らす障害を持つ人や家族

受益対象者の人数：180名

支出額：527,091円（「事業収支明細書（その26）」を参照）

③ 事業名：帝京科学大学の障害者乗馬のカリキュラム

内 容：2004年度より帝京科学大学（山梨県）が本格的に実施している障害者乗馬のカリキュラムの実習を行いました。

実施日：2005年8月1日～5日、2005年8月8日～12日

場 所：横浜乗馬倶楽部（神奈川県横浜市）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：帝京科学大学の学生

受益対象者の人数：15名

支出額：1,103,591円（「事業収支明細書（その27）」を参照）

④ **事業名：海外講師派遣**

内 容：「人と馬とのやさしい関係」で招いた Jo Pringle 氏と Mary Longden 氏を次のグループが行う乗馬活動に派遣しました。

＜Jo Pringle 氏＞

- ・日本乗馬療育インストラクター養成学校（北海道）
- ・RDA宇都宮
- ・ハローヒポ
- ・RDA横浜
- ・湯ノ山乗馬クラブ

＜Mary Longden 氏＞

- ・RDA宇都宮
- ・ハローヒポ
- ・RDA横浜

実施日：2005年8月30日～9月30日

場 所：日本乗馬療育インストラクター養成学校（北海道浦河町）

RDA宇都宮（栃木県宇都宮市）

ハローヒポ（群馬県松井田町）

RDA横浜（神奈川県横浜市）

湯ノ山乗馬クラブ（三重県）

従事者の人数：2名（RDA Japan からの派遣人数）

受益対象者の範囲：各グループで障害者乗馬の活動に関わる人

受益対象者の人数：100名

支出額：343,063円（「事業収支明細書（その28）」を参照）

⑤ **事業名：第7回RDA横浜杯**

内 容：RDA横浜が主催した第7回目の障害者（児）の乗馬競技会に、「人と馬とのやさしい関係」で招いた Gundula Hauser 氏と Mary Longden 氏をジャッジとして派遣するなど協力しました。

実施日：2005年9月11日

場 所：横浜乗馬倶楽部（神奈川県横浜市）

従事者の人数：2名（RDA Japan からの派遣人数）

受益対象者の範囲：RDA横浜の会員、RDA Japan 会員および RDA Japan のユニットの会員

受益対象者の人数：100名

支出額：0円（収入および支出はなし）

⑥ **事業名：環境教育・環境保全活動を促進する税制改正についての説明会**

内 容：環境省総合環境政策局環境経済課が主催する「環境教育・環境保全活動を促進する税制改正についての説明会」において、『認定NPO申請の実体験を語る』というテーマでの講演会に長谷川修事務局長を派遣しました。

実施日：2005年9月30日

場 所：環境パートナーシップオフィス会議室（東京都渋谷区）

従事者の人数：1名（RDA Japan からの派遣人数）

受益対象者の範囲：NPOの運営に関わる人、関心のある人

受益対象者の人数：50名

支出額：0円（収入および支出はなし）

⑦ 事業名：帝京科学大学の体験乗馬会②

内 容：帝京科学大学（山梨県）が開催した、近隣に暮らす障害を持つ人を対象にした体験乗馬会の実施に協力しました。

実施日：2005年10月10日

場 所：帝京科学大学（山梨県上野原町）

従事者の人数：7名

受益対象者の範囲：帝京科学大学の学生および近隣に暮らす障害を持つ人や家族

受益対象者の人数：180名

支出額：470,007円（「事業収支明細書（その29）」を参照）

⑧ 事業名：障害者乗馬インストラクターと理学療法士のための講習会

内 容：理学療法士や障害者乗馬インストラクターを対象にした「障害者乗馬インストラクターと理学療法士のための講習会」に、太田恵美子専務理事を派遣しました。

実施日：2005年10月29日～30日

場 所：社会福祉法人恵光園（福岡県豊前市）

従事者の人数：1名（RDA Japan からの派遣人数）

受益対象者の範囲：西日本地方で障害者乗馬の活動に関わる人、関心のある人

受益対象者の人数：50名

支出額：0円（収入および支出はなし）

⑨ 事業名：NPOのための寄付セミナー

内 容：シーズ（市民活動を支える制度をつくる会）が主催する「NPOのための寄付セミナー」において、『認定NPO申請の実体験を語る』というテーマでの講演会に長谷川修事務局長を派遣しました。

実施日：2005年11月16日

場 所：文京シビックホール（東京都文京区）

従事者の人数：1名（RDA Japan からの派遣人数）

受益対象者の範囲：NPOの運営に関わる人、関心のある人

受益対象者の人数：30名

支出額：0円（収入および支出はなし）

⑩ 事業名：認定NPO申請に関する講演会

内 容：水と森の連絡会議が主催する「認定NPO申請に関する講演会」において、『認定NPO申請の実体験を語る』というテーマでの講演会に長谷川修事務局長を派遣しました。

実施日：2006年1月28日

場 所：島根県職員会館（島根県松江市）

従事者の人数：1名（RDA Japan からの派遣人数）

受益対象者の範囲：NPOの運営に関わる人、関心のある人

受益対象者の人数：40名

支出額：0円（収入および支出はなし）

(第2号議案)

■ 2005年度 会計および監査報告に関する件

(2005年4月1日～2006年3月31日)

科 目	金 額 (単位:円)			備 考
I. 収入の部				
1. 会費収入				注 1
正会員費	477,000			注 2
賛助会費	60,000	537,000	537,000	
2. 寄付金収入				
寄付金収入	3,496,280			
物品による寄付	77,490	3,573,770	3,573,770	
3. 補助金収入				注 3
民間助成金収入	2,450,000	2,450,000	2,450,000	
4. 事業収入				
(1) 啓発・普及および人材育成事業				
会報の発行	0			
馬の取り扱いガイドライン	2,400			
ガイドブックの頒布	8,600			
ガイドブックの作成と頒布	467,750			
ロゴマークのリニューアル	0	478,750		
スペシャルオリンピックスの講習会	350,000			
資格認定①	6,000			
資格認定②	0	356,000		
ヘルパーのための講習会①	108,500			
ヘルパーのための講習会②	56,000			
ヘルパーのための講習会③	105,000			
ヘルパーのための講習会④	91,000			
ヘルパーのための講習会⑤	143,500	504,000		
RDA交流会	30,400			
日韓交流	1,707,820			
モンゴルツアー	1,831,680			
サマーキャンプ	1,080,000			
クリスマスカードの発送	0			
写真コンテスト	0	4,649,900		
損保ジャパンのブース展示	0			
名古屋けいば・冠レース	0			
人と馬との優しい関係	119,895			
ビデオコンペ	123,380	243,275		
RDA絵ハガキの頒布	1,000		6,276,125	
トレーナーなどの頒布	43,200	44,200		

<事業収入の続き>				
(2) 支援・協調事業				
ユニットへの支援	0	0		
帝京科学大学の実習	1,069,600			
帝京科学大学乗馬会①	767,000			
帝京科学大学乗馬会②	767,000	2,603,600		
海外講師派遣	262,110	262,110	2,865,710	
5. 雑収入				
雑収入	67,653			
受取利息	32	67,685	67,685	注 4
当期収入合計(a)			15,770,290	
前期繰越金収入			7,811,154	
収入合計(b)			23,581,444	

注 1 正会員 @3,000 円×159 名

注 2 賛助会員 @10,000 円×6 口

注 3 日本郵政公社 500,000 円 (ガイドブック)

笹川スポーツ財団 1,000,000 円 (サマーキャンプ)

日本国際博覧会協会 950,000 円 (人と馬との優しい関係)

注 4 日韓文化交流基金 機関誌の原稿執筆料 20,727 円

長谷川事務局長 一時立替 45,746 円

乗馬ライフ 10月号を誤って RDA Japan で入金分 1,180 円

科 目	金 額 (単位:円)		備 考
II. 支出の部			
1. 運営支出			
会議費	2,126		
通信費	232,051		
荷送費	15,940		
広報費	24,675		
消耗品費	110,151		
コピー費	1,107		
研修等参加および参考書籍購入費	108,480		
慶弔費	15,500		
諸会費	61,861		
租税公課	80,800		
什器備品費	0		
振込料	420	653,111	653,111
			注 5

2. 事業支出				
(1) 啓発・普及および人材育成事業				
会報の発行	369,735			
馬の取り扱いガイドライン	15,504			
ガイドブックの頒布	1,180			
ガイドブックの作成と頒布	1,733,090			
ロゴマークのリニューアル	0	2,119,509		
スペシャルオリンピックスの講習会	358,229			
資格認定①	1,390			
資格認定②	41,720	401,339		
ヘルパーのための講習会①	346,086			
ヘルパーのための講習会②	342,953			
ヘルパーのための講習会③	413,894			
ヘルパーのための講習会④	301,715			
ヘルパーのための講習会⑤	349,701	1,754,349		
RDA交流会	51,680			
日韓交流	3,625,196			
モンゴルツアー	2,754,777			
サマーキャンプ	2,156,462			
クリスマスカードの発送	8,030			
写真コンテスト	165,870	8,762,015		
損保ジャパンのブース展示	65,437			
名古屋けいば・冠レース	92,772			
人と馬との優しい関係	5,315,087			
ビデオコンペ	229,686	5,702,982		
RDA絵ハガキの頒布	0		18,740,894	
トレーナーなどの頒布	700	700		
(2) 支援・協調事業				
ユニットへの支援	45,330	45,330		
帝京科学大学の実習	1,103,591			
帝京科学大学乗馬会①	527,091			
帝京科学大学乗馬会②	470,007	2,100,689		
海外講師派遣	343,063	343,063	2,489,082	
3. 予備費				
予備費	0			
助成金申請準備金	0	0	0	注 6
4. 雑費	62,676	62,676	62,676	
当期支出合計(c)			21,945,763	
当期収支差額(a)-(c)			▲6,175,473	
次期繰越金収支差額(b)-(c)			1,635,681	

注 5 豊島区社会福祉協議会年会費 2,000 円

FRDI 年会費(2 ヶ年分) 59,861 円 (700 オーストラリアドル/1 ドル=85.516 円)

注 6 ビデオの修理代 15,750 円

長谷川事務局長 一時立替分の返金 45,746 円

乗馬ライフ 10 月号を RDA Japan で入金分を乗馬ライフへ返金 1,180 円

事業収支明細書 (その1)

事業名：会報「RDA Japan News」の発行

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
—	0	注 1
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	25,615	注 1
2. 諸謝金	77,000	
3. 通信費	267,120	
支出合計(b)	369,735	
収支差額(a)-(b)	▲369,735	

<発行号数と通信費の内訳>

第 42 号	49,210 円	543 部 (国内 90 円×539 通、海外 4 通)
第 43 号	41,110 円	512 部 (国内 80 円×508 通、海外 4 通)
第 44 号	47,160 円	524 部 (国内 90 円×524 通)
第 45 号	41,790 円	521 部 (国内 80 円×516 通、海外 5 通)
第 46 号	42,830 円	534 部 (国内 80 円×529 通、海外 5 通)
第 47 号	45,020 円	535 部 (国内 90 円×203 通、国内 80 円×330 通、海外 2 通)
	267,120 円	

注 1 編集スタッフ謝金 @7,000 円×5 回×1 名=35,000 円

印刷・発送スタッフ謝金 @7,000 円×6 回×1 名=42,000 円

事業収支明細書 (その2)

事業名：RDAの馬 取扱いガイドラインの配布

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 実費	2,400	@400 円×6 冊
収入合計(a)	2,400	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	7,654	60 冊分の製本の用紙など ユニットや認定インストラクターなどへ送付
2. 通信費	7,850	
支出合計(b)	15,504	
収支差額(a)-(b)	▲13,104	

事業収支明細書 (その3)

事業名：「RDA活動のためのガイドブック」の頒布と改訂

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 頒布	8,000	@2,000 円×4 冊
2. 送料	600	
収入合計(a)	8,600	
II. 支出の部		
1. 通信費	580	
2. 荷送費	600	
支出合計(b)	1,180	
収支差額(a)-(b)	7,420	

事業収支明細書 (その4)

事業名：ガイドブックの作成と頒布

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 頒布	454,000	227 冊
2. 送料	13,750	
収入合計(a)	467,750	
II. 支出の部		
1. 印刷費	1,312,500	凸版印刷
2. 消耗品費	40	
3. 諸謝金	147,000	注 1
4. 編集デザイン費	250,000	長谷川クリエイティブオフィス
5. 通信費	17,020	
6. 荷送費	5,900	
7. 振込料	630	
支出合計(b)	1,733,090	
収支差額(a)-(b)	▲1,265,340	日本郵政公社様からの助成金を充当

注 1 編集作業スタッフ @7,000 円×5 日×3 名=105,000 円

@7,000 円×3 日×2 名=42,000 円

事業収支明細書 (その5)

事業名：スペシャルオリンピックス 乗馬コーチ養成のための講習会

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	350,000	@10,000 円×35 名
収入合計(a)	350,000	
II. 支出の部		
1. 印刷費	41,329	飲物など
2. 会議費	116,702	打合せ、弁当など
3. 会場費	49,400	借馬料 (@10,000 円×2 頭)、会議室使用料
4. 交通費	1,500	
5. コピー費	360	
6. 宿泊費	54,864	
7. 消耗品費	11,354	
8. 諸謝金	74,000	注 1
9. 通信費	6,400	
10. 保険	2,250	
11. 振込料	70	
支出合計(b)	358,229	
収支差額(a)-(b)	▲8,229	

注 1 通訳 @30,000 円×2 名=60,000 円

運営スタッフ @7,000 円×2 名=14,000 円

事業収支明細書 (その6)

事業名：RDAインストラクター認定審査①

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 登録料	6,000	@3,000 円×2 名
収入合計(a)	6,000	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	840	
2. 通信費	550	
支出合計(b)	1,390	
収支差額(a)-(b)	4,610	

事業収支明細書 (その7)

事業名：RDAインストラクター認定審査②

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 交通費	26,400	
2. 宿泊費	12,700	
3. 通信費	2,620	
支出合計(b)	41,720	
収支差額(a)-(b)	▲41,720	

事業収支明細書 (その8)

事業名：RDAヘルパーのための講習会(帯広)

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	108,500	注 1
収入合計(a)	108,500	
II. 支出の部		
1. 会議費	49,051	
2. 会場費	90,000	注 2
3. 交通費	91,200	航空運賃と宿泊費がパックになった料金
4. 消耗品費	525	
5. 諸謝金	105,000	注 3
6. 通信費	3,220	
7. 荷送費	3,600	
8. 保険	3,000	
9. 振込料	490	
支出合計(b)	346,086	
収支差額(a)-(b)	▲237,586	

注 1 @7,000円×15名=105,000円

@3,500円×1名=3,500円

注 2 借馬料 @20,000円×2頭×2日=80,000円

会議室使用料 @5,000円×2日=10,000円

注 3 講師 @20,000円×2日×1名=40,000円

@15,000円×2日×1日=30,000円

運営スタッフ @7,000円×2日×2名=28,000円

準備スタッフ @3,500円×1日×2名=7,000円

事業収支明細書 (その9)

事業名：RDAヘルパーのための講習会 (富山)

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 参加費	56,000	注 1
収入合計(a)	56,000	
II. 支出の部		
1. 会議費	36,693	
2. 会場費	90,000	注 2
3. 交通費	65,240	
4. 宿泊費	33,730	
5. 諸謝金	101,500	注 3
6. 通信費	10,740	
7. 荷送費	2,480	
8. 保険	2,500	
9. 振込料	70	
支出合計(b)	342,953	
収支差額(a)-(b)	▲286,953	

注 1 @7,000円×4名=28,000円

@3,500円×8名=28,000円

注 2 借馬料 @20,000円×2頭×2日=80,000円

会議室使用料 @5,000円×2日=10,000円

注 3 講師 @20,000円×2日×1名=40,000円

@15,000円×2日×1日=30,000円

運営スタッフ @7,000円×2日×2名=28,000円

準備スタッフ @3,500円×1日×1名=3,500円

事業収支明細書 (その10)

事業名：RDAヘルパーのための講習会 (山形)

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 参加費	105,000	注 1
収入合計(a)	105,000	
II. 支出の部		
1. 会議費	51,764	
2. 会場費	86,160	注 2
3. 交通費	119,530	
4. 宿泊費	38,190	
5. 諸謝金	111,500	注 3
6. 通信費	590	
7. 荷送費	2,590	
8. 保険	3,500	
9. 振込料	70	
支出合計(b)	413,894	
収支差額(a)-(b)	▲308,894	

注 1 @7,000円×15名=105,000円

注 2 借馬料 @20,000円×2頭×2日=80,000円

会議室使用料 @3,080円×2日=6,160円

注 3 講師 @20,000円×2日×2名=80,000円

運営スタッフ @7,000円×2日×2名=28,000円

準備スタッフ @3,500円×1日×1名=3,500円

事業収支明細書 (その11)

事業名：RDAヘルパーのための講習会(岩手)

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 参加費	91,000	注 1
収入合計(a)	91,000	
II. 支出の部		
1. 会議費	25,890	
2. 会場費	90,000	注 2
3. 交通費	49,880	
4. 宿泊費	27,800	
5. 消耗品費	3,735	
6. 諸謝金	98,000	注 3
7. 通信費	1,080	
8. 荷送費	2,260	
9. 保険	3,000	
10. 振込料	70	
支出合計(b)	301,715	
収支差額(a)-(b)	▲210,715	

注 1 @7,000円×10名=70,000円

@3,500円×6名=21,000円

注 2 借馬料 @20,000円×2頭×2日=80,000円

会議室使用料 @5,000円×2日=10,000円

注 3 講師 @20,000円×2日×1名=40,000円

@15,000円×2日×1日=30,000円

運営スタッフ @7,000円×2日×2名=28,000円

事業収支明細書 (その12)

事業名：RDAヘルパーのための講習会(函館)

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 参加費	143,500	注 1
収入合計(a)	143,500	
II. 支出の部		
1. 会議費	52,961	
2. 会場費	90,000	注 2
3. 交通費	92,360	航空運賃と宿泊費がパックになった料金
4. 諸謝金	101,500	注 3
5. 通信費	780	
6. 荷送費	7,530	
7. 保険	4,500	
8. 振込料	70	
支出合計(b)	349,701	
収支差額(a)-(b)	▲206,201	

注 1 @7,000円×20名=140,000円

@3,500円×1名=3,500円

注 2 借馬料 @20,000円×2頭×2日=80,000円

会議室使用料 @5,000円×2日=10,000円

注 3 講師 @20,000円×2日×1名=40,000円

@15,000円×2日×1日=30,000円

運営スタッフ @7,000円×2日×2名=28,000円

準備スタッフ @3,500円×1日×1名=3,500円

事業収支明細書 (その13)

事業名：RDA交流会

(単位：円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 参加費	30,400	@1,600円×19名
収入合計(a)	30,400	
II. 支出の部		
1. 会議費	51,680	カフェテラス本郷
支出合計(b)	51,680	
収支差額(a)-(b)	▲21,280	不足分は使途指定寄付金を充当

事業収支明細書 (その14)

事業名：日韓・フレンドシップ乗馬交流

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	1,590,000	
2. 返金	117,820	キャンセル分、旅行代理店より
収入合計(a)	1,707,820	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	10,786	
2. 通信費	11,630	
3. 荷送費	17,290	
4. 旅行代金	3,328,740	ユニオン・エアサービス
5. ポロシャツ作成	157,500	
6. 振込料	1,050	
7. 返金	98,200	
支出合計(b)	3,625,196	
収支差額(a)-(b)	▲1,917,376	

事業収支明細書 (その15)

事業名：モンゴル乗馬ツアー

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	1,761,030	
2. 返金	70,650	
収入合計(a)	1,831,680	
II. 支出の部		
1. 宿泊費	871,967	
2. 通信費	1,040	
3. 荷送費	640	
4. ポロシャツ作成費	31,900	
5. 旅行代金	1,848,180	ジャスミンツアー
6. 振込料	1,050	
支出合計(b)	2,754,777	
収支差額(a)-(b)	▲923,097	北澤隆様からの寄付金を充当

事業収支明細書 (その16)

事業名：RDAサマーキャンプ

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	1,080,000	注 1
収入合計(a)	1,080,000	
II. 支出の部		
1. 会議費	4,370	飲物など
2. 会場費	570,000	沢城湖山荘 (ハートランド牧場)
3. 交通費	81,260	
4. 宿泊費	1,056,000	
5. 消耗品費	103,089	沢城湖山荘
6. 諸謝金	300,000	注 2
7. 通信費	3,340	
8. 荷送費	9,110	
9. 保険	28,543	
10. 振込料	750	
支出合計(b)	2,156,462	
収支差額(a)-(b)	▲1,076,462	笹川スポーツ財団様からの助成金を充当

注 1 @20,000円×54名=1,080,000円

注 2 講師 @10,000円×3日×5名=150,000円

運営スタッフ @7,000円×3日×5名=105,000円

準備スタッフ @3,000円×5日×3名=45,000円

事業収支明細書 (その17)

事業名：クリスマスカードの送付

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	3,600	クリスマスカード代
2. 通信費	4,430	
支出合計(b)	8,030	
収支差額(a)-(b)	▲8,030	

事業収支明細書 (その18)

事業名：第1回 RDA Japan写真コンテスト

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	840	
2. 諸謝金	79,500	注 1
3. 通信費	5,820	
4. 荷送費	2,220	
5. 賞品	77,490	カバロ東京様より物品寄附分
支出合計(b)	165,870	
収支差額(a)-(b)	▲165,870	

注 1 審査員 @20,000円×3名=60,000円
 商品券@975円×20枚=19,500円

事業収支明細書 (その19)

事業名：「愛・地球博」損保ジャパン 企業ブースにおける活動パネル展示

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 印刷費	37,800	パネル出力代
2. 消耗品費	22,027	展示写真プリント代、チラシ用紙など
3. 通信費	1,120	
4. 荷送費	4,490	
支出合計(b)	65,437	
収支差額(a)-(b)	▲65,437	

事業収支明細書 (その20)

事業名：名古屋けいば・冠レース

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	91,522	優勝関係者への賞品と出走各馬のゼッケンなど
2. 通信費	390	
3. 荷送費	650	
4. 振込料	210	
支出合計(b)	92,772	
収支差額(a)-(b)	▲92,772	

事業収支明細書 (その21)

事業名：国際シンポジウム「人と馬との優しい関係」

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	119,895	注 1
収入合計(a)	119,895	
II. 支出の部		
1. 印刷費	153,000	
2. 会議費	358,129	
3. 会場費	26,250	
4. 交通費	1,571,070	
5. コピー代	7,140	
6. 什器備品費	185,600	
7. 宿泊費	602,835	
8. 消耗品費	257,245	
9. 諸謝金	1,382,000	注 2
10. 租税公課	1,400	グルジアの発表者（来日せず）のビザ申請
11. 通信費	294,543	
12. 荷送費	78,748	
13. 入場券購入費	385,900	
14. 振込料	11,227	
支出合計(b)	5,315,087	
収支差額(a)-(b)	▲5,195,192	注 3

- 注 1 4日間登録 @14,000円×8名=112,000円
 2日間登録 @4,000円×2日×1名=8,000円
 クレジットカード手数料 ▲105円=@35円×3名
- 注 2 通訳 @100,000円×5回=500,000円
 準備スタッフ @7,000円×延べ18名=126,000円
 @3,500円×2名=7,000円 (仕事量が半日のため)
 講師 @30,000円×14名=420,000円
 運営スタッフ @7,000円×4日×11名=308,000円
 @7,000円×3日×1名=21,000円
- 注 3 次の皆さまからの補助金および協賛金を充当しました
 日本博覧会協会様からの補助金
 株式会社クリニコ様からの協賛金
 ジェーシーアール株式会社様からの協賛金
 大日本製薬株式会社様からの協賛金
 乗馬ライフ (オーシャンライフ株式会社) 様からの協賛金

事業収支明細書 (その22)

事業名: パンパシフィック・パラエクエストリアン・ビデオ競技会

(単位: 円)

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 参加費	123,380	注 1
収入合計(a)	123,380	
II. 支出の部		
1. 印刷費	1,256	
2. 会議費	11,009	
3. 会場費	1,600	
4. コピー代	1,620	
5. 宿泊費	38,737	
6. 消耗品費	40,176	
7. 諸謝金	111,000	注 2
8. 通信費	1,860	
9. 荷送費	22,218	
10. 振込料	210	
支出合計(b)	229,686	
収支差額(a)-(b)	▲106,306	

- 注 1 参加登録費 @3,000円×30名=90,000円
 @3,500円×1名=3,500円 (外国為替にて)
 DVD送付代 @3,000円×10名=30,000円
 クレジットカード手数料 ▲120円=@15円×8名
- 注 2 審査員 @30,000円×3名=90,000円
 運営スタッフ @7,000円×3名=21,000円

事業収支明細書 (その23)

事業名：RDA チャリティー絵ハガキ作成

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 頒布	1,000	@500円×2枚
収入合計(a)	1,000	
II. 支出の部		
—	0	
支出合計(b)	1,000	
収支差額(a)-(b)	1,000	

事業収支明細書 (その24)

事業名：ロゴ入りトレーナーとポロシャツ、書籍などの頒布

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. トレーナー	12,000	@3,000円×4着
2. ホースケアマニュアル	31,200	@7,800円×4冊 (太田恵美子氏より寄贈分)
収入合計(a)	43,200	
II. 支出の部		
1. 荷送費	700	
支出合計(b)	700	
収支差額(a)-(b)	42,500	

事業収支明細書 (その25)

事業名：ユニット支援

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 通信費	45,330	
支出合計(b)	45,330	
収支差額(a)-(b)	▲45,330	

事業収支明細書 (その26)

事業名：帝京科学大学乗馬会①

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 請負代金	767,000	
収入合計(a)	767,000	
II. 支出の部		
1. 会議費	43,090	飲物など
2. 交通費	11,500	
3. コピー代	110	
4. 借馬料	300,000	紅葉台木曾馬牧場
5. 消耗品費	49,811	
6. 諸謝金	50,000	@10,000円×5名
7. 通信費	19,860	
8. 荷送費	10,390	
9. 保険	41,580	
10. 振込料	750	
支出合計(b)	527,091	
収支差額(a)-(b)	239,909	

事業収支明細書 (その27)

事業名：帝京科学大学の障害者乗馬のカリキュラム

(単位：円)

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 請負代金	1,069,600	
収入合計(a)	1,069,600	
II. 支出の部		
1. 会議費	1,323	
2. 交通費	6,939	
3. コピー代	3,510	
4. 借馬料	569,600	
5. 消耗品費	21,619	
6. 諸謝金	500,000	注 1
7. 振込料	600	
支出合計(b)	1,103,591	
収支差額(a)-(b)	▲33,991	

注 1 講師 @20,000円×5日×2回×1名=200,000円
 講師助手 @10,000円×5日×2回×1名=100,000円
 @8,800円×5日×2回×1名=88,000円
 @7,000円×5日×2回×1名=70,000円
 @7,000円×3日×2回×1名=42,000円

■ 2005年度 財産目録 (2006年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	金 額			備 考
I. 資産の部				
1. 流動資産				
現金	57,705			
銀行預金 (1)	1,374,798			注 1
銀行預金 (2)	108,876			注 2
郵便貯金	94,302			
流動資産合計		1,635,681		
2. 固定資産	0	0		
固定資産合計				
3. その他の資産				注 3
什器備品	375,330			取得原価
電話加入権	53,340			注 4
書籍 (ガイドブック)	3,378,000			
その他の資産合計		3,806,670		
資産合計			5,442,351	
II. 負債の部				
1. 流動負債	0			
2. 固定負債	0			
3. その他の負債	0	0		
負債合計			0	
正味財産			5,442,351	

注 1 普通預金 東京三菱銀行広尾支店

注 2 普通預金 UFJ銀行池袋支店

注 3 電話機 40,000 円 (取得原価)
ビデオカメラ 104,790 円 (取得原価)
プロジェクタ 44,940 円 (取得原価)
パソコン 185,600 円 (取得原価)

注 4 @2,000 円 (在庫数は 1,689 冊)

■ 監査報告書

私どもは、特定非営利活動法人RDA J a p a n定款第 50 条の規定に基づき、
2005 年度の事業報告書、収支決算書の監査をした結果、いずれも適正かつ正確に執行さ
れていましたことを認めます。

2006年4月23日

特定非営利活動法人RDA J a p a n

監事 草薙 長栄

(自書)

印

監事 谷知 庸一

(自書)

印

(第3号議案)

■ 定款変更（役員定数の部分）に関する件

【変更の理由と概要】

- (1) 定款において理事の定数を「15人以上30人以内」と定めておりますが、現状の理事数が15人と最下限の状態にあります。
万が一、欠員が発生した場合、定款に抵触し、運営に支障をきたすことが想定されます。
このことから、理事の定数の最下限数を「12人以上」と変更することを提議いたします。
- (2) 定款において理事の種別を「理事のうち理事長を1名、副理事長を2名以内、専務理事を1名」と定めておりますが、能動的な理事会とし、機動的な運営を執り行うために専務理事職を廃し、「理事長を1名、副理事長を2名以内」と変更することを提議いたします。

【変更する条項】

(変更前)

第14条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 15人以上30人以内
 - (2) 監事 2人
- 2 理事のうち理事長を1名、副理事長を2名以内、専務理事を1名とする。

(変更後)

第14条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 10人以上30人以内
 - (2) 監事 2人
- 2 理事のうち理事長を1名、副理事長を2名以内とする。

(変更前)

第15条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長、副理事長及び専務理事は、理事の互選による。

(変更後)

第15条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選による。

(変更前)

第16条 理事長は、この法人を代表し、業務を統括する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、あらかじめ理事長の定める順位により、理事長に事故あるときはその職務を代行し、理事長が欠けたときにはその職務を行う。
- 3 専務理事は、理事長及び副理事長を補佐し、総務を統括して会務の運営にあたる。
- 4 理事は、理事会を構成し、業務の執行を決定する。

(変更後)

第16条 理事長は、この法人を代表し、業務を統括し会務の運営にあたる。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、あらかじめ理事長の定める順位により、理事長に事故あるときはその職務を代行し、理事長が欠けたときにはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、業務の執行を決定する。

【現行の定款（役員部分の全文 および定款変更に関する部分）】

第3章 役員

（種別及び定数）

第14条 この法人に、次の役員を置く。

- （1）理事 15人以上30人以内
- （2）監事 2人

2 理事のうち理事長を1名、副理事長を2名以内、専務理事を1名とする。

（選任等）

第15条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長、副理事長及び専務理事は、理事の互選による。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

（職務）

第16条 理事長は、この法人を代表し、業務を統括する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、あらかじめ理事長の定める順位により、理事長に事故あるときはその職務を代行し、理事長が欠けたときにはその職務を行う。
- 3 専務理事は、理事長及び副理事長を補佐し、総務を統括して会務の運営にあたる。
- 4 理事は、理事会を構成し、業務の執行を決定する。
- 5 監事は、次の職務を行う。
 - （1）財産の状況を監査すること。
 - （2）理事の業務執行の状況を監査すること。
 - （3）財産の状況又は業務の執行について不正の事実を発見したときは、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - （4）前号の規定による報告をするため必要があるときは、総会を招集すること。
 - （5）理事の業務執行の状況、又はこの法人の財産状況について意見を述べ、又は理事会の招集を請求する。

（任期等）

第17条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠又は増員により選任された役員任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期が満了した場合においても後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

（欠員補充）

第18条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を越えるものが欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

（役員解任）

第19条 役員が次の各号の一に該当するときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経て、その役員を解任することができる。

- （1）心身の故障のため職務の執行に堪えがたいと認められるとき。
 - （2）職務上の義務違反、その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
 - （3）第12条第1項の規定により除名されたとき。
- 2 役員を解任しようとするときは、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

（報酬等）

第20条 役員は、無給とする。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

< 定款変更に関する部分 >

第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第53条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経たのち、所轄庁の認証を得なければならない。

(第4号議案)

■ 役員承認に関する件

【2006年度の役員（案）】

理事長	本好 茂一
副理事長	吉永 みち子
	徳力 幹彦
理事	池辺 有紀
同	奥村 まち子
同	太田 恵美子
同	金森 美穂
同	金子 美保
同	菊地 恵子
同	黒田 朋子
同	近藤 誠司
同	鈴木 勝（新任）
同	十川 康弘
同	中田 正子
同	長谷川 修
監事	草薙 長栄
	谷知 庸一

（理事15名、監事2名）

【退任する役員】

（理事）

小池 友子

【新任する役員】

（理事）

鈴木 勝

(第5号議案)

■ 2006年度 事業計画に関する件

【基本方針（案）】

先の報告の通り、2005年度は「活動の成果を結実することができた年度」であると、総括いたしましたように、私たち RDA Japan の活動および事業は、設立以来、しっかりと大きく成長し、発展してまいりました。

2006年度は、RDA Japan の活動と組織を見直しつつ、さらなる発展に向けて再出発のための年度と位置づけ、さらに鋭意努力して障害者乗馬の活動を発展成長させてまいります。

皆さまの力強いご協力ご支援、さまざまな経験や知識に基づくご意見などをいただけますよう、よろしく願いいたします。

(1) 普及・啓発事業

- ・会報の発行
- ・ガイドブックの頒布
- ・軽乗体験会と軽乗プログラム研修会

(2) 人材育成事業

- ・RDAヘルパーのための講習会（今年は3回程度）
- ・インストラクターを目指す人のための講習会（北海道鹿追町／10月）
- ・海外講師の講習会
- ・資格認定

(3) 乗馬活動による交流

- ・FRDIブラジル大会に参加
- ・日韓フレンドシップ交流乗馬会（サムスンのメンバーが来日）
- ・モンゴル乗馬ツアー
- ・サマー乗馬キャンプ
- ・RDA Japan 写真コンテスト

(4) ユニット（および準ユニット）への支援・協調事業強化

- ・情報提供
- ・人材派遣および交流

なお、継続して実施してまいりました次の事業は廃止し、財産目録からも削除いたします。

- ・「RDA活動のためのガイドブック2000年版」の頒布
- ・ロゴ入りトレーナーとポロシャツ、書籍などの頒布
- ・RDA チャリティー絵ハガキ作成

【2006年度事業計画（案）】**1. 啓発・普及および人材育成事業****(1) 普及・啓発事業****① 事業名：会報「RDA Japan News」の発行**

内 容：RDA Japan の活動を広く周知と理解を求めること、そして各地域組織の情報交換を目指して、会報を隔月 1 日付で発行します。毎号 1,200 部。

実施日：2006 年 5 月 1 日、2006 年 7 月 1 日、2006 年 9 月 1 日、
2006 年 11 月 1 日、2007 年 1 月 1 日、2007 年 3 月 1 日 計 6 回

場 所：編集および発送は、RDA Japan 事務局（東京都文京区）
印刷は、事務局近くのボランティアセンター

従事者の人数：5 名

受益対象者の範囲：RDA Japan 会員および RDA Japan の活動に関係する団体や個人

受益対象者の人数：1,200 名（発行部数に同じ）

支出額：430,000 円（「事業収支予算書（その 1）」を参照）

② 事業名：「RDA 活動のためのガイドブック」の頒布

内 容：2005 年 8 月に加筆改訂した「RDA 活動のためのガイドブック」を頒布します。

実施日：2006 年 4 月～2007 年 3 月

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区）

従事者の人数：5 名

受益対象者の範囲：RDA Japan 会員。その他、活動に関心がある人

受益対象者の人数：多数

支出額：90,000 円（「事業収支予算書（その 2）」を参照）

③ 事業名：軽乗体験会と軽乗プログラム研修会

内 容：軽乗は、馬の上でバランスをとりながら運動する馬術種目で、世界選手権大会が行なわれるほど国際的に盛んなスポーツです。また、軽乗は、体を動かす運動能力よりも、馬や自分以外の騎乗者とのコミュニケーション能力が重要で、青少年の健全な育成はもちろん、問題行動や対人関係が難しい障害者、他者との関係でストレスを抱えている人たちなどにとって問題の解決にも大きな効果があります。

この軽乗を多くの青少年や障害を持つ人たちに体験してもらうために、全国 3 カ所の乗馬施設で実施します。また、軽乗体験会に合わせて、地域の乗馬指導者やボランティアを対象に「軽乗を活用するためのプログラム研修会」も開催します。

（1 日目に研修会、2 日目に軽乗体験会）

財団法人ヨネックススポーツ振興財団様のご支援をいただいで実施します。

実施日：2006 年 5 月～2007 年 3 月

場 所：北海道、関東、九州の常設の馬場がある施設

従事者の人数：5 名

受益対象者の範囲：RDA Japan および地方活動組織の会員、その他活動に関心がある人

受益対象者の人数：100 名

支出額：1,704,200 円（「事業収支予算書（その 3）」を参照）

(2) 人材育成（指導者養成）事業

① 事業名：海外から講師を招聘しての講習会

内 容：障害者乗馬の先駆的な講師を海外より招いて、指導者を対象にした講習会を開催します。
実施日：2006年9月
場 所：関東近郊の馬場および会議室
従事者の人数：6名
受益対象者の範囲：RDA Japan 会員のうち、各団体で指導的な役割を果たしている方
受益対象者の人数：15名
支出額：1,917,500円（「事業収支予算書（その4）」を参照）

② 事業名：RDAインストラクターを目指す人のための講習会

内 容：国内で障害者乗馬の指導に携わりたいことを希望する人材の育成とスキルアップを目的に、具体的なレッスンプランの作成、組織運営など、指導者にとって必要な知識を学ぶための講習会を開催します。
実施日：2006年10月
場 所：鹿追ライディングパーク（北海道鹿追町）
従事者の人数：6名
受益対象者の範囲：RDA Japan 会員のうち、各団体で指導的な役割を果たしている人
受益対象者の人数：30名
支出額：435,000円（「事業収支予算書（その5）」を参照）

③ 事業名：インストラクター資格認定

内 容：安全に障害者乗馬の活動をするために、知識と技術を審査した上で「RDA Japan 認定『RDAインストラクター資格』」の認定し授与します。各団体の指導者からログブック（活動記録）を提出していただき、資格認定委員会が認定審査を行い理事会に諮り認定します。
実施日：通年
場 所：認定申請者が活動している所
従事者の人数：5名
受益対象者の範囲：RDA Japan 会員
受益対象者の人数：3名
支出額：67,500円（「事業収支予算書（その6）」を参照）

(3) 人材育成（ボランティアヘルパー養成）事業

① 事業名：RDAヘルパーのための講習会

内 容：RDA活動に参加する方（ヘルパー）を対象にした講習会。
この講習会は、安全で的確な活動を行う上で欠かすことのできないものであり、さまざまな地域で年間5回程度開催します。（1会場あたりの開催期間は、2日間）
独立行政法人福祉医療機構様のご支援をいただいて実施します。
実施日：2006年5月～2007年3月
場 所：各団体が活動している常設の馬場
従事者の人数：5名
受益対象者の範囲：RDA Japan および地方活動組織の会員、その他活動に関心がある人
受益対象者の人数：120名
支出額：2,382,500円（「事業収支予算書（その7）」を参照）

(4) 交流事業**① 事業名：総会当日に交流会**

内 容：総会当日にレセプションを実施し、RDA活動に参加する方どうしの交流を深めます。

実施日：2005年4月24日

場 所：総会会場近くのレストランなど

従事者の人数：2名

受益対象者の範囲：RDA Japan および地方活動組織の会員、その他活動に関心がある人

受益対象者の人数：20名

支出額：70,000円（「事業収支予算書（その8）」を参照）

② 事業名：日韓フレンドシップ交流乗馬2006

内 容：昨年5月の訪韓は、日本と韓国で障害者乗馬に関わるメンバーどうしの交流の機会となったと同時に、RDサムスンとの姉妹協定を締結するなど実り多いものとなりました。

2006年度はRDサムスンのメンバーを日本にお迎えして交流乗馬会を実施し、さらに密接な関係を築いてまいります。

実施日：2006年5月

場 所：横浜乗馬倶楽部（神奈川県横浜市）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：日本および韓国にて障害者乗馬の活動に関わる人

受益対象者の人数：60名

支出額：248,000円（「事業収支予算書（その9）」を参照）

③ 事業名：モンゴル乗馬ツアー

内 容：このツアーはRDA Japan 会員の北澤隆さんのご支援により企画いたしました。

モンゴルでの乗馬トレッキングを何度も経験されている北澤さんの『全国各地でRDAに参加している皆さんにも、モンゴルの雄大な草原での乗馬を楽しんでもらいたい』という思いがきっかけです。

滞在中の3日間は遊牧民の案内で乗馬トレッキングに出かけ、また、自然や馬と共に生きる遊牧民との交流を図ります。

北澤隆様のご支援をいただいで実施します。

実施日：2006年6月

場 所：モンゴル

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：日本国内において障害者乗馬の活動に関わる人

受益対象者の人数：30名

支出額：900,000円（「事業収支予算書（その10）」を参照）

④ 事業名：FRDI ブラジル大会に参加

内 容：ブラジルで開催されるFRDI（国際障害者乗馬連盟）の国際会議に人材を派遣し、障害者乗馬の国際状況についての情報収集および国際交流を行います。

実施日：2006年8月

場 所：ブラジル

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：世界各国の人々

受益対象者の人数：不特定多数

支出額：50,000円（「事業収支予算書（その11）」を参照）

⑤ 事業名：RDA サマーキャンプ

内 容：全国各地で乗馬をしている障害を持つ人や家族、ボランティアが、日ごろの乗馬レッスンの環境とは異なる森や湖のほつりを夏空のもとで、乗馬をはじめさまざまなスポーツを楽しみ、夜には交流を深めたり情報や意見を交換しあつたりする宿泊訓練を行い、「次へのステップと課題」の発見につなげることを目的とします。

なお、このサマーキャンプは、笹川スポーツ財団「SSFスポーツエイド」様の助成をいただいで実施します。

実施日：2006年8月19日～21日

場 所：沢城湖ハートランド牧場（長野県飯田市）

従事者の人数：11名

受益対象者の範囲：日本国内において障害者乗馬の活動に関わる人

受益対象者の人数：70名

支出額：2,422,400円（「事業収支予算書（その12）」を参照）

⑥ 事業名：クリスマスカードの送付

内 容：世界各国の関係団体および有識者などとコミュニケーションを図ることを目的に、クリスマスカードを送付します。

実施日：2005年12月

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区大塚 3-5-2-301）

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：世界各国のRDA関係者

受益対象者の人数：40通（送付数）

支出額：8,000円（「事業収支予算書（その13）」を参照）

⑦ 事業名：RDA Japan 写真コンテスト

内 容：日々の活動や競技会、イベントなどで記録した写真も数多くあり、また、記録の意義を超えて「馬上の笑顔の記憶」として芸術的な素晴らしい写真を公募して「RDA Japan 写真コンテスト」を開催します。

実施日：通年

場 所：RDA Japan 事務局（東京都文京区）

従事者の人数：5名

受益対象者の範囲：RDA Japan 会員。その他、活動に関心がある人

受益対象者の人数：多数

支出額：95,000円（「事業収支予算書（その14）」を参照）

2. 支援・協調事業

① 事業名：ユニットの認定とユニットへの支援

内 容：日本国内の各地域で障害者乗馬の活動している団体を支援することを目的に、その活動内容をRDA活動団体認定委員会が審査を行い、理事会に諮りユニットまたは準ユニットと認定し、支援および協力をしていきます。

2004年度までに登録しているユニットおよび準ユニットは以下の通りです。

静内乗馬同好会ボランティア部会（北海道静内町）

★クローバー（北海道浦河町）

(新) RDAおびちく（北海道帯広市）

パカポコ・クラブ（岩手県西磐井郡）

★RDA宇都宮（栃木県宇都宮市）

ハロー・ヒポ（群馬県松井田町）

比企ポニークラブ（埼玉県東松山市）

★北区さわやかポニークラブ（東京都北区）

とっぽの会足立ポニークラブ（東京都足立区）

世田谷障害者乗馬の会（東京都世田谷区）

★RDA横浜（横浜市都筑区）

★RDAユニット多摩（横浜市青葉区）

レモンクラブ（岐阜県多治見市）

山口県障害者乗馬の会（山口県宇部市）

★恵光園ヒポクラブ（福岡県豊前市） <以上、ユニット6団体、準ユニット8団体>

※ ★印が2005年度までにユニットと認定した団体。その他は準ユニット。

実施日：通年

場 所：全国各地

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：RDAの理念に則って活動する団体

受益対象者の人数：多数（地域活動団体の会員）

支出額：57,600円（79ページの「事業収支予算書（その15）」を参照）

② 事業名：帝京科学大学のカリキュラム実施への協力

内 容：帝京科学大学（山梨県）の「障害者乗馬に関わるカリキュラム」の実施において、カリキュラム作成の作成、講師の派遣と、実技講習としてレッスンへの学生の受入などで協力します。

実施日：通年

場 所：帝京科学大学（山梨県）

従事者の人数：3名

受益対象者の範囲：帝京科学大学の学生

受益対象者の人数：120名

支出額：1,240,000円（「事業収支予算書（その16）」を参照）

③ 事業名：行政や研究機関、大学などが行う事業のうち、日程や内容が未決定のものについて

内 容：行政や研究機関、大学などが行う事業で、RDAおよびRDA Japanの活動にとって有意義で、かつ必要性を認めたものについては協力していきます。

理事会で検討し、議決をもって具体的に対応し、会報にてご報告いたします。

実施日：未定

場 所：未定

従事者の人数：未定

受益対象者の範囲：未定

受益対象者の人数：未定

支出額：※ 支出については、理事会の議決を経て予備費より供出する場合があります。

(第6号議案)

■ 2006年度 予算計画に関する件

2006年度 収支予算書(案)

(2006年4月1日～2007年3月31日)

科 目	金 額 (単位:円)			備 考
I. 収入の部				
1. 会費収入				注 1
正会員費	450,000			注 2
賛助会費	50,000	500,000	500,000	
2. 寄付金収入				
寄付金収入	3,000,000			
物品による寄付	50,000		3,050,000	
3. 補助金収入				注 3
民間助成金収入	3,100,000	3,100,000	3,100,000	
4. 事業収入				
(1) 啓発・普及および人材育成事業				
会報の発行	0			
ガイドブックの頒布	690,000			
軽乗プログラム	150,000	840,000		
海外講師の講習会	450,000			
インストラクター講習会	300,000			
ヘルパーのための講習会	525,000			
資格認定	26,000	1,301,000		
RDA交流会	70,000			
モンゴルツアー	50,000			
FRDI ブラジル大会	0			
サマーキャンプ	1,100,000			
クリスマスカードの発送	0			
写真コンテスト	0	1,220,000	3,361,000	
(2) 支援・協調事業				
ユニットへの支援	0			
帝京科学大学のカリキュラム	1,300,000	1,300,000	1,300,000	
5. 雑収入				
雑収入	0			
受取利息	0	0	0	
当期収入合計(a)			11,311,000	
前期繰越金収入			1,635,681	
収入合計(b)			12,946,681	

注 1 正会員 @3,000円×150名

注 2 賛助会員 @10,000円×5口

注 3 財団法人ヨネックススポーツ財団 800,000円
 独立行政法人福祉医療機構 1,300,000円
 財団法人笹川スポーツ財団 1,000,000円

予算計画

科 目	金 額 (単位:円)			備 考
Ⅱ. 支出の部				
1. 運営支出				
会議費	10,000			
通信費	180,000			
荷送費	20,000			
広報費	50,000			
消耗品費	80,000			
コピー費	10,000			
研修等参加および参考書籍購入費	200,000			
慶弔費	10,000			
諸会費	2,000			注 4
租税公課	80,000			
什器備品費	0			
振込料	0	642,000	642,000	
2. 事業支出				
(1) 啓発・普及および人材育成事業				
会報の発行	430,000			
ガイドブックの頒布	90,000			
軽乗プログラム	1,704,200	2,224,200		
海外講師の講習会	1,917,500			
インストラクター講習会	435,000			
ヘルパーのための講習会	2,382,500			
資格認定	67,500	4,802,500		
RDA交流会	70,000			
モンゴルツアー	900,000			
FRDIブラジル大会	50,000			
サマーキャンプ	2,422,400			
クリスマスカードの発送	8,000			
写真コンテスト	95,000	3,545,400	10,572,100	
(2) 支援・協調事業				
ユニットへの支援	57,600			
帝京科学大学のカリキュラム	1,240,000	1,297,600	1,297,600	
3. 予備費				
予備費	434,981	434,981	434,981	
当期支出合計(c)			12,946,681	
当期収支差額(a)-(c)			0	
次期繰越金収支差額(b)-(c)			0	

注 4 豊島区社会福祉協議会年会費 2,000円

事業収支予算書（案）（その1）

事業名：会報「RDA Japan News」の発行

（単位：円）

科 目	予算額	備 考
I. 収入の部		
－	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	40,000	
2. 通信費	264,000	@80円×550通×6回
3. 諸謝金	120,000	
支出合計(b)	424,000	
収支差額(a)-(b)	▲424,000	

注 1 編集スタッフ @3,000円×2日×1名×6回=36,000円

発送スタッフ @7,000円×1日×2名×6回=84,000円

事業収支予算書（案）（その2）

事業名：「RDA活動のためのガイドブック」の頒布

（単位：円）

科 目	予算額	備 考
I. 収入の部		
1. 売上	600,000	@2,000円×300冊
2. 送料	90,000	@300円×300冊
収入合計(a)	690,000	
II. 支出の部		
1. 通信費	90,000	
支出合計(b)	90,000	
収支差額(a)-(b)	600,000	

事業収支予算書（案）（その3）

事業名：軽乗体験会と軽乗プログラム研修会

（単位：円）

科 目	予算額	備 考
I. 収入の部		
1. 研修会参加費	150,000	@5,000円×10名×3会場
収入合計(a)	150,000	
II. 支出の部		
1. 諸謝金	360,000	注 1
2. 交通費	510,000	注 2
3. 宿泊費	240,000	注 3
4. 会場費	270,000	注 4
5. 会議費	30,000	飲物代 @5,000円×2日×3会場
6. 印刷コピー費	60,000	案内チラシ、資料、その他の印刷
7. 通信費	47,200	注 5
8. 消耗品費	100,000	馬具、文具など
9. 弁当代	72,000	@800円×15名×2日×3会場
10. 保険	15,000	@50円×50名×2日×3会場
支出合計(b)	1,704,200	
収支差額(a)-(b)	▲1,554,200	ヨネックススポーツ財団様の助成金を充当

- 注 1 講師 @20,000円×2名×2日×3会場=240,000円
 軽乗デモンストレーター @7,000円×2名×2日×3会場=84,000円
 運営スタッフ @7,000円×1名×2日×3会場=42,000円
- 注 2 北海道 @50,000円×5名=250,000円
 関東 @2,000円×5名=10,000円
 九州 @50,000円×5名=250,000円
- 注 3 北海道 @8,000円×5名×3泊=120,000円
 九州 @8,000円×5名×3泊=120,000円
- 注 4 会議室使用料 @5,000円×2日×3会場=30,000円
 借馬料 @20,000円×2頭×2日×3会場=240,000円
- 注 5 参加募集案内 @80円×50通=40,000円
 参加者へ案内 @80円×30通×3会場=7,200円

事業収支予算書（案）（その4）

事業名：海外から講師を招聘しての講習会

（単位：円）

科 目	予算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	450,000	@30,000 円×15 名
収入合計(a)	450,000	
II. 支出の部		
1. 諸謝金	618,000	注 1
2. 交通費	600,000	海外講師渡航費（2名分）、国内交通費
3. 宿泊費	268,000	注 2
4. 会場費	135,000	注 3
5. 会議費	30,000	@10,000 円×3 日
6. 印刷コピー費	50,000	資料など作成
7. 通信費	40,000	@80 円×500 通
8. 消耗品費	100,000	文具、馬具など
9. 弁当代	72,000	注 4
10. 保険	4,500	@50 円×30 名×3 日
支出合計(b)	1,917,500	
収支差額(a)-(b)	▲1,467,500	

- 注 1 海外講師 @30,000 円×3 日×2 名=180,000 円
 国内講師 @20,000 円×3 日×2 名=120,000 円
 通訳 @30,000 円×3 日×2 名=180,000 円
 運営スタッフ @7,000 円×3 日×3 名=63,000 円
 準備スタッフ @3,000 円×5 日×5 名=75,000 円
- 注 2 海外講師 @10,000 円×7 泊×2 名=140,000 円
 国内講師・通訳 @8,000 円×4 泊×4 名=128,000 円
- 注 3 会議室使用料 @5,000 円×3 日=15,000 円
 借馬料 @20,000 円×2 頭×3 日=120,000 円
- 注 4 @800 円×30 名×3 日=72,000 円

事業収支予算書（案）（その5）

事業名：RDAインストラクターを目指す人のための講習会

（単位：円）

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	300,000	@20,000 円×15 名
収入合計(a)	300,000	
II. 支出の部		
1. 諸謝金	108,000	注 1
2. 交通費	100,000	@50,000 円×2 名
3. 宿泊費	32,000	@8,000 円×2 泊×2 名
4. 会場費	90,000	注 2
5. 会議費	10,000	飲物 @5,000 円×2 日
6. 印刷コピー費	5,000	
7. 通信費	45,000	@80 円×500 通=40,000 円 荷送費 5,000 円
8. 消耗品費	10,000	
9. 弁当代	32,000	@800 円×2 日×20 名
10. 保険	3,000	注 3
支出合計(b)	435,000	
収支差額(a)-(b)	▲135,000	

注 1 講師 @20,000 円×2 日×2 名=80,000 円

運営スタッフ @7,000 円×2 日×2 名=28,000 円

準備スタッフ @3,000 円×3 日×3 名×2 回=54,000 円

注 2 借馬料 @20,000 円×2 頭×2 日=80,000 円

会議室 @5,000 円×2 日=10,000 円

注 3 @50 円×2 日×30 名=3,000 円（参加者以外に講師・スタッフ、乗り手モデルなど）

事業収支予算書（案）（その6）

事業名：インストラクター資格認定

（単位：円）

科 目	予算額	備 考
I. 収入の部		
1. 審査料	20,000	@10,000 円×2 名
2. 登録料	6,000	@3,000 円×2 名
収入合計(a)	26,000	
II. 支出の部		
1. 借馬料	10,000	@10,000 円×1 日
2. 通信費	500	
3. 消耗品費	500	
4. コピー費	500	
5. 審査員交通費	40,000	@20,000 円×2 名
6. 審査員宿泊費	16,000	@8,000 円×1 泊×2 名
支出合計(b)	67,500	
収支差額(a)-(b)	▲41,500	

予算計画

事業収支予算書（案）（その7）

事業名：RDAヘルパーのための講習会

（単位：円）

科目	予算額	備考
I. 収入の部		
1. 講習会参加費	525,000	@7,000円×15名×5会場
収入合計(a)	525,000	
II. 支出の部		
1. 諸謝金	610,000	注 1
2. 交通費	525,000	注 2
3. 宿泊費	360,000	@8,000円×3名×3泊×5会場
4. 会場費	450,000	注 3
5. 会議費	50,000	飲物代 @10,000円×5会場
6. 印刷コピー費	20,000	案内チラシ、資料、その他の印刷
7. 通信費	40,000	@80円×100通×5会場
8. 消耗品費	150,000	馬具、文具 @30,000円×5会場
9. 弁当代	160,000	@800円×20名×2日×5会場
10. 保険	17,500	注 4
支出合計(b)	2,382,500	
収支差額(a)-(b)	▲1,837,000	福祉医療機構様の助成金を充当

注 1 講師 @20,000円×2名×2日×5会場=400,000円
 スタッフ @7,000円×3名×2日×5会場=210,000円

注 2 @50,000円×3名=150,000円
 @30,000円×3名=90,000円
 @25,000円×3名=75,000円
 @20,000円×3名=60,000円
 @50,000円×3名=150,000円

注 3 会議室など使用料 @5,000円×2日×5会場=50,000円
 借馬料 @20,000円×2頭×2日×5会場=400,000円

注 4 1日目 @50円×20名×5会場=5,000円
 2日目 @50円×50名×5会場=12,500円

事業収支予算書（案）（その8）

事業名：総会当日に交流会

（単位：円）

科目	予算額	備考
I. 収入の部		
1. 参加費	70,000	@3,500円×20名
収入合計(a)	70,000	
II. 支出の部		
1. レセプション	70,000	
支出合計(b)	70,000	
収支差額(a)-(b)	0	

事業収支予算書（案）（その9）

事業名：日韓フレンドシップ交流乗馬会

（単位：円）

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 交通費	75,000	注 1
2. 会議費	105,000	注 2
3. 会場費	48,000	借馬料 @12,000 円×1 時間×2 頭×2 日
4. 保険	20,000	@250 円×40 名×2 日
支出合計(b)	248,000	
収支差額(a)-(b)	▲248,000	

注 1 有料道路 @5,000 円×5 台×1 往復=50,000 円
ガソリン代 @5,000 円×5 台=25,000 円

注 2 軽食材料費 5,000 円

懇親会費 @5,000 円×20 名=100,000 円（韓国の皆さん分／日本側分は参加者各自）

事業収支予算書（案）（その10）

事業名：モンゴル乗馬ツアー

（単位：円）

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
1. ポロシャツ作成費	50,000	@2,000 円×25 名
収入合計(a)	50,000	
II. 支出の部		
1. 現地滞在費	800,000	
2. ポロシャツ作成費	100,000	
支出合計(b)	900,000	
収支差額(a)-(b)	▲850,000	北澤隆様からの寄付金を充当

事業収支予算書（案）（その11）

事業名：FRDI ブラジル大会に参加

（単位：円）

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 会議参加費	50,000	
支出合計(b)	50,000	
収支差額(a)-(b)	▲50,000	

事業収支予算書（案）（その12）

事業名：RDA サマーキャンプ

（単位：円）

科 目	予算額	備 考
I. 収入の部		
1. 参加費	1,100,000	@20,000 円×55 名
収入合計(a)	1,100,000	
II. 支出の部		
1. 諸謝金	360,000	注 1
2. 交通費	88,000	@8,000 円×11 名（講師、スタッフ分）
3. 宿泊費	1,056,000	@8,000 円×2 泊×66 名
4. 会場費	570,000	注 2
5. 会議費	30,000	飲物
6. 印刷コピー費	3,000	
7. 通信費	104,000	郵便@80 円×80 通、荷送費 4,000 円
8. 消耗品費	115,000	文具、写真プリントなど
9. ポロシャツ作成費	70,000	@1,000 円×70 着
10. 保険	26,400	@400 円×66 名
支出合計(b)	2,422,400	
収支差額(a)-(b)	▲1,322,400	笹川スポーツ財団様の助成金を充当

- 注 1 乗馬インストラクター @10,000 円×3 日×3 名=90,000 円
 ローピングインストラクター @10,000 円×3 日×1 名=30,000 円
 カントリーダンスインストラクター @10,000 円×3 日×1 名=30,000 円
 医師 @20,000 円×3 日×1 名=60,000 円
 運営スタッフ @7,000 円×3 日×5 名=105,000 円
 準備スタッフ @3,000 円×5 日×3 名=4,500 円
- 注 2 騎乗料 @8,000 円×1 時間×55 名=440,000 円
 カヌー @1,000 円×6 時間×5 台=30,000 円
 フィッシング @1,000 円×2 時間×30 竿=60,000 円
 キャンプファイヤー代 40,000 円

事業収支予算書（案）（その13）

事業名：クリスマスカードの送付

（単位：円）

科 目	予算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	3,500	封筒、宛名シール、用紙
2. コピー費	500	
3. 通信費	5,000	
支出合計(b)	8,000	
収支差額(a)-(b)	▲8,000	

事業収支予算書（案）（その14）

事業名：第1回 RDA Japan 写真コンテスト

（単位：円）

科 目	決算額	備 考
I. 収入の部		
—	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 消耗品費	5,000	審査員 @20,000円×4名=80,000円
2. 諸謝金	80,000	
3. 通信費	10,000	
支出合計(b)	95,000	
収支差額(a)-(b)	▲95,000	

事業収支予算書（案）（その15）

事業名：ユニットの認定とユニットへの支援

（単位：円）

科目	予算額	備考
I. 収入の部		
－	0	
収入合計(a)	0	
II. 支出の部		
1. 郵送費	47,600	注 1
2. 消耗品費	10,000	
支出合計(b)	57,600	
収支差額(a)-(b)	▲57,600	

注 1 会報をまとめて郵送 @500円×14団体×6回=42,000円
 その他の通信 @80円×14団体×5回=5,600円

事業収支予算書（案）（その16）

事業名：帝京科学大学のカリキュラム

（単位：円）

科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 請負代金①	550,000	実習
2. 請負代金②	750,000	乗馬会
収入合計(a)	1,300,000	
II. 支出の部		
1. 会議費	10,000	
2. 交通費	100,000	@10,000円×5名×2会場
3. 借馬料	600,000	@300,000円×2会場
4. 宿泊費	80,000	@4,000円×10名×1泊×2会場
5. 消耗品費	30,000	
6. 諸謝金	340,000	注 1
7. 通信費	10,000	
8. 荷送費	10,000	
9. 弁当代	30,000	
10. 保険	30,000	
支出合計(b)	1,240,000	
収支差額(a)-(b)	60,000	

注 1 講師① @20,000円×1名×5日=100,000円
 講師② @20,000円×3名=60,000円
 講師助手 @10,000円×5名=50,000円
 インストラクター @20,000円×3名=60,000円
 スタッフ @7,000円×10名=70,000円

